

326.81  
Si 298A



\*0016422000\*

0016422-000

326.81-Si298s

思想犯罪輯覽 思想研究資料

司法省刑事局・編

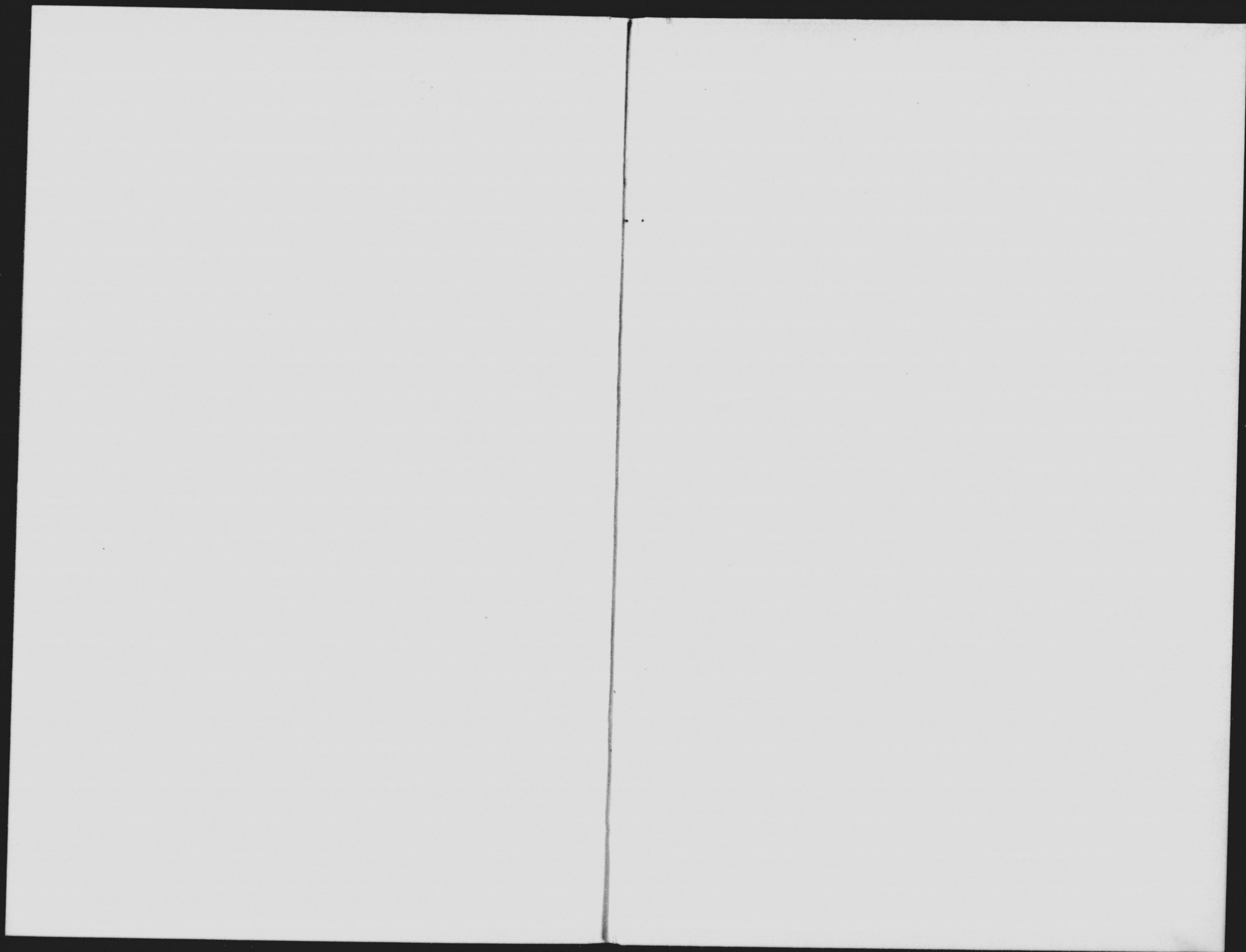
司法省刑事局

昭和2-3年

1931

ACG







工 D-82

秘

昭和六年二月

# 思想研究資料

第十四輯

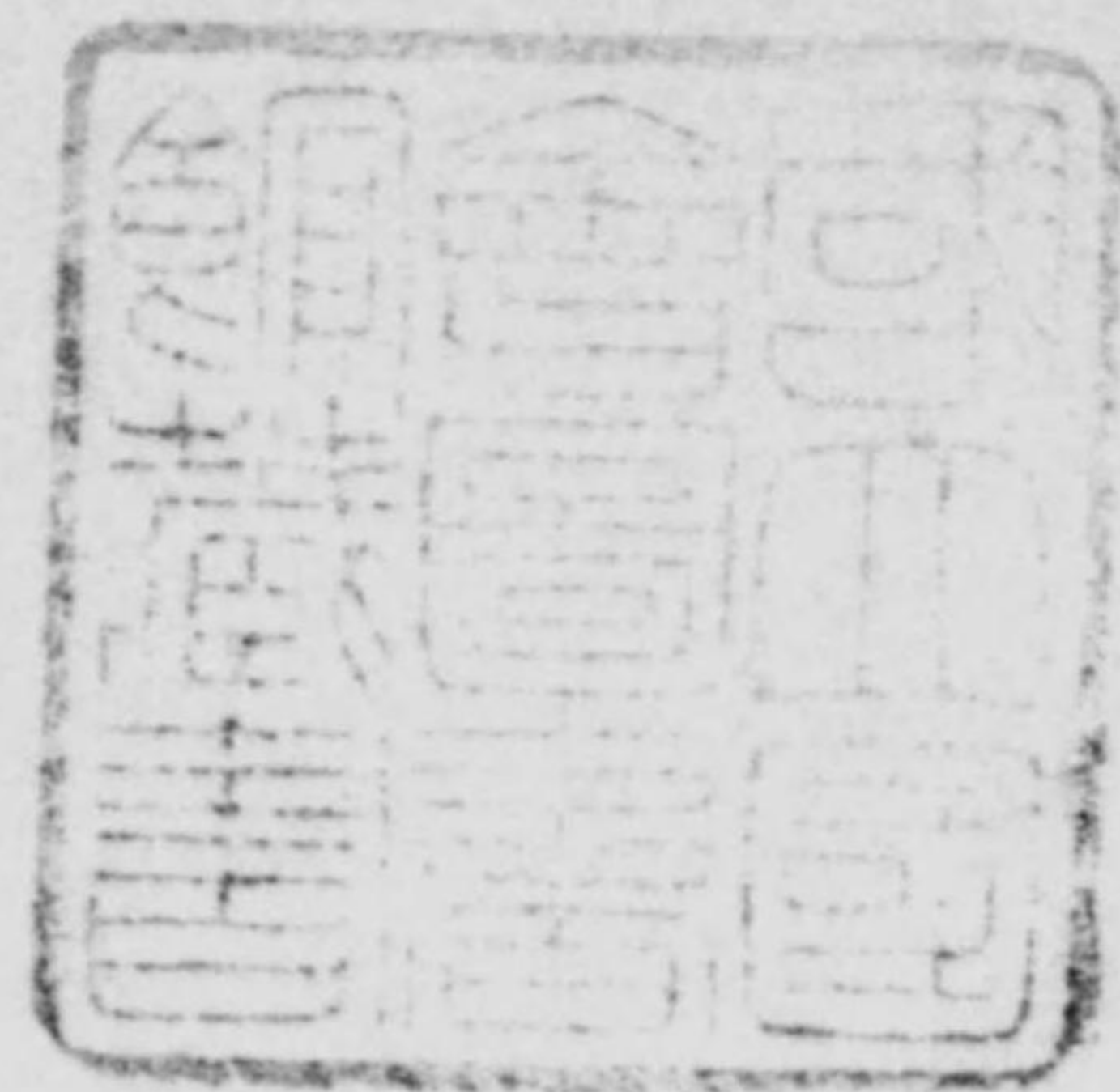
司法省刑事局



法律資料



326.8/Si298A



282480

### 凡 例

一、本輯は思想調査第六輯の續編にして昭和二年一月より昭和三年十月<sup>二月</sup>迄の間に發生したる思想犯罪事件(但治安維持法違反事件及其の關連事件並に不敬犯罪事件を除く)に付昭和四年二月末日現在にて同日迄に起訴したるものを各部門に分ち犯罪發生の日の順序に収録したり。

一、罪名は確定判決ありたるものは處斷罪名を、無罪、免訴、公訴棄却の裁判ありたるもの及未確定のものは起訴罪名を掲げたり。

罪名に「暴力」とあるは「暴力行爲等處罰に關する法律」を示し、其の他の特別法令違反の罪名には「法」、「令」又は「規則」等の辭句を省略したり。

一、第一審結果欄に「略」とあるは略式命令確定したることを示す。

「犯罪事實」標題下の「公訴」、「略式」又は「豫審」若は「判決」とあるは夫々公訴事實、略式命令又は豫審終結決定若は判決に於ける認定事實を引用したることを示す。

一、卷頭「思想犯罪の概況」に引用したる一般刑法犯罪に關する諸統計は刑事統計



年報に據りたり。

一、「其の他」の部に収録したる犯罪は必ずしも思想犯罪なる範疇に属するものに  
あらざれども便宜上収録することとせり。

昭和六年二月

司法省刑事局思想部

目次

昭和二年  
昭和三年  
に於ける思想犯罪の概況……………一頁

附表

- 一、昭和二年  
昭和三年  
罪名別有罪確定思想犯罪人員表……………三七
- 一、同  
年齢別有罪確定思想犯罪人員表……………四一
- 一、同  
罪名、年齢別有罪確定思想犯罪人員表……………四三
- 一、同  
職業別有罪確定思想犯罪人員表……………四七
- 一、同  
季節別有罪確定思想犯罪事件数及人員表……………四九
- 一、同  
裁判所別有罪確定思想犯罪事件及人員表……………五一

目次



労働争議に基く犯罪

昭和二年

神戸 富康熊吉外一名暴力行為等處罰に關する法律違反事件……………一頁

株式會社東亞護謨製造所職工の待遇改善要求を貫徹せむとして支配人方を襲ひたる事件

岡山 平盛巳三夫外二名同……………一

合名會社岡山製材工場職工の復職及爭議資金負擔等を要求するに際し同工場主に暴行したる事件

福島 鈴木弘外一名傷害事件(磐城炭坑爭議)……………三

磐城炭礦株式會社の爭議に際し會社側爭議團本部事務所を視見したる労働組合員に對し毆打したる事件

同 葛西留五郎外十八名同(同)……………四

前同爭議に對し労働組合員に對し毆打したる事件の報復として會社側爭議團本部事務所を襲ひたる事件

同 高橋菊太郎外十六名騷擾事件(同)……………八

前同上

同 山賀運作外九名脅迫事件(同)……………一〇

前同爭議に際し反會社労働組合員に對し脅迫したる事件

同 今村米次外五名銃砲火藥類取締施行規則違反事件(同)……………一一

前同爭議に際し會社側警務係となり拳銃及刀劍等を携帯したる事件

同 赤尾敏外五名暴力行為等處罰に關する法律違反事件(同)……………一三

前同爭議に際し労働組合員と口論の上暴行脅迫を爲したる事件

熊本 永村徳次郎外一名出版法違反事件……………一四

竹田製油工場爭議に關し熊本市民の同情後援を求めんとして無届出版を爲したる事件

鳥取 荒木從繩外一名同……………二一

米子製鋼所職工の同盟罷業勃發の爲來援して無届出版を爲したる事件

秋田 淵上一外七名傷害事件(尾去澤鑛山爭議)……………二六

尾去澤鑛山鑛夫復職を要求し同盟罷工を爲したる際會社側が罷業鑛夫の就務方を戒告したるに端を發し組合側會社側入亂れて格闘したる事件

神戸 福本忠次郎警察犯處罰令違反事件……………二八

猪名川染織所爭議に際し職工側に有利に之を展開せむとして同僚職工の爭議加入方を強談したる事件



東京 坂東保一外二名傷害事件……………二九  
 電機製作所の誠首職工の復讐争議に際し同工場主の委任者に解決方詰問に當り同人を亂打したる事件

大阪 橋田菊吉外三名暴力行爲等處罰に關する法律違反事件……………三一  
 富田硝子製造所職工の賃銀値上等を要求罷業したる際工場主の父の住居其の他に殺到したる事件

福島 大森巨外六名傷害事件……………三三  
 入山炭礦鑛夫の危険坑道入坑拒否争議に際し坑夫組合員の入坑阻止宣傳中之が宣傳を中止したる會社側警戒係を毆打したる事件

千葉 山田和造外四名業務妨害、毀棄事件……………三五  
 醬油醸造業島海合名會社の解雇職工の復職及職工待遇改善の要求を爲し怠業中同會社員を威逼、醬油を汚惡、樽を損壞したる事件

福島 田邊喜三平傷害事件(入山炭坑争議)……………三六  
 入山炭礦争議に際し會社側の警戒中労働組合員の同盟罷業宣傳を阻止せむとして之を傷害したる事件

同 加藤菊三外三名暴力行爲等處罰に關する法律違反事件(同)……………三七  
 前同上の暴行事件

同 田邊末松外一名公務執行妨害事件(同)……………三八  
 入山炭礦労働争議に關する演說會解散を命ぜられたる際臨監督官に暴行したる事件

同 小笠原政治同(同)……………三九  
 同上演說會に於て辯士の演說を中止せられたる際臨監督部補に卓子を投げつけむとしたる事件

同 荒川五郎同(同)……………三九  
 同争議労働組合側應援の辯護士出迎に當り交通巡查に暴行したる事件

同 齋藤森十同(同)……………四〇  
 同争議演說會に於て辯士の演說を中止せられたる際臨監督官に投石したる事件

同 小牧秀則傷害事件(同)……………四一  
 同争議の労働組合員の行動を憎み之に打撲傷を與へたる事件

神戸 位々木守暴力行爲等處罰に關する法律違反事件……………四一  
 乾鐵線株式會社の争議應援中同社工場長の乗せる人力車を轉覆損壞したる事件

福島 阿部吉彌外二十二名騷擾事件(入山炭坑争議)……………四二  
 入山炭坑争議罷業中入山炭坑病院及同社宅前其の他に於て喧嘩したる事件

同 仲谷松之助外十一名同(同)……………四五  
 同上



大阪 西原墨太郎外三名傷害事件……………四八

理髮及齒科用廻轉椅子製作工場に於ける退職手當制定、職工人員増加、賃銀値上等要求の爭議中之か目的達成の爲工場主宅に於て職長を毆打したる事件

徳島 福永豊功暴力行為等處罰に關する法律違反事件……………四九

撫養鹽田に於て賃銀値上要求の上意業中塩田主が他に募集したる鹽田労働者を恐迫したる事件

廣島 日野彌平外四名傷害事件……………五一

鞆町合名會社の賃銀値下反對爭議中其應援者が借家なる爭議團事務所閉鎖に際し之を損壞し巡查に傷害を負はしたる事件

札幌 生石善雄外六名公務執行妨害事件……………五五

小樽解業組合其他海岸事業者との爭議罷業中罷業者の集合取締の警察官に對し傷害を與へたる事件

福岡 武藤久太郎外十二名騷擾事件……………五八

三井鑛業株式會社三池鑛業所万田炭坑夫の賃銀値上外十一ヶ條を要求爭議に際し坑夫側に有利に解決せむとして社宅附近に於て喧嘩傷害を負はしたる事件

札幌 小野川妙五郎脅迫事件……………六一

小樽市に於ける自由労働者の同盟罷業に際し裏切的行為を爲したる一労働者を脅迫したる事件

東京 今泉銀太外一名瀆職事件……………六二

大日本紡績株式會社橋場工場及日本ハナキ護謄製造所労働爭議取締警戒中の警察官と同會社との贈收賄事件

大阪 大城山外六名暴力行為等處罰に關する法律違反事件……………六四

大理石工業株式會社職工の賃銀値上、解雇手當制定及解雇者に對する手當金等要求の爭議に際し同會社重役方に殺到したる事件

安濃津 辻村一外二十名騷擾事件……………六六

山林労働者が賃銀値上外三要求を爲し同盟罷業中之が解決を促進する爲示威運動を爲し其の雇主及其の親族方を襲ひたる事件

大阪 藍原武雄外十一名暴力行為等處罰に關する法律違反事件……………七四

安藤寫眞製版所の職工解雇退職手當の制定等十一ヶ條の要求を爲し爭議中同所に殺到し脅迫したる事件

岡山 山口正義同……………七六

中國製紙株式會社職工解雇手當に關し爭議中同社長に面會を求めたる際室内に侵入の上器物を損壞したる事件

廣島 川田政造外二十二名傷害事件……………七七

中國製紙株式會社職工の解雇者復職等六項の要求を爲し同盟罷業中通勤職工の通勤を阻止せむとして傷害を負はしめたる事件

大阪 田淵富士逸外四十三名騷擾事件……………九三

森田、山本洋洒各工場職工等の團體交渉權確認及労働條件改正等要求中同各工場に殺到騷擾したる事件

神戸 廣岡徳松傷害事件……………九九

中山亞鉛鍍金株式會社の賃銀値下に對し職工の意業中同社人事係の辯明的聲明に際し同人及其の他の者を毆打したる事件



同 合田萬次郎外二名暴力行為等處罰に關する法律違反事件……………一〇〇  
同會社工業所職工同盟罷業中裏切職工を毆打し又脅迫したる事件

浦和 岩内善作外十八名業務妨害事件……………一〇一  
富士瓦斯紡績會社本庄工場の解雇職工の復職を要求し拒絶せらるるに及び工場内に闖入し工場發  
動機の電流を遮断し、作業中の女工等を退去せしめて業務を妨害したる事件

千葉 小泉與三太郎外二名暴力行為等處罰に關する法律違反事件(野田醬油會社爭議)……………一〇四  
野田醬油株式會社の爭議中同重役の雇人等を脅迫したる事件

神戶 土谷謙一脅迫事件……………一〇六  
淡路製陶株式會社職工の同盟罷業應援中非労働組合員にして罷業不参加の職工の通勤を阻止せむ  
として暴行脅迫したる事件

千葉 柴山清四郎脅迫事件(野田醬油會社爭議)……………一〇七  
野田醬油株式會社爭議中裏切被疑職工に對し毆打暴行の上爭議資金出金方の誓約書に強ひて署名  
捺印せしめたる事件

同 石塚元一郎外六名暴力行為等處罰に關する法律違反事件(同)……………一〇八  
同會社爭議中裏切職工の通勤を阻止せむとして暴行傷害を爲したる事件

同 升田眞三傷害事件(同)……………一一二  
同會社爭議に關し惡罵せられたるより罵倒したる者に打撲傷を負はしめたる事件

福島 鈴木臂岡外九名暴力行為等處罰に關する法律違反事件……………一一三  
東部電力株式會社郡山支店従業員が待遇改善要求を峻拒せられたるより、之に對し電燈料値下の  
要求中同會社員及重役に暴行脅迫を爲したる事件

千葉 逆井三郎暴力行為等處罰に關する法律違反事件(野田醬油會社爭議)……………一一九  
野田醬油株式會社爭議に關し町内防備巡廻中同會社員を毆打暴行したる事件

同 吉田芳次郎外一名脅迫事件(同)……………一二九  
前同上爭議に關し同會社人夫に採用せられむため同會社重役宛脅迫文書を郵送したる事件

同 三浦儀一傷害事件(同)……………一二一  
前同上爭議に關し町内巡廻中爭議團員に對し毆打傷害を負はしめたる事件

同 渡邊七藏外一名同(同)……………一二二  
前同上爭議に關し同會社員を毆打傷害したる事件

同 山口榮三郎同(同)……………一二三  
前同上爭議に關し通勤職工の勤務を阻止せむとして之に暴行し又労働組合の一員が會社夜警夫に  
毆打せられたるを憤り之に傷害を與へたる事件

同 關本政五郎同(同)……………一二五  
前同上爭議に關し町内防備中同會社員を毆打傷害したる事件



2

旭川 山本作二出版法違反事件……………一三五

千葉 岡村薄皮工場争議に關し無届出版頒布したる事件……………一三五

千葉 深井浦吉脅迫事件(野田醬油會社争議)……………一三八

山口六市業務妨害事件(同)……………一三九

旭川 前同上争議に關し同會社に對する惡宣傳を爲し其反省を促さむ爲の印刷物を頒布して同會社の信用を毀損し業務を妨害したる事件……………一三〇

遠藤徳男出版法違反事件……………一三〇

昭和本管工場争議に關し無届出版したる事件……………一三〇

千葉 佐藤時之助外一名傷害事件(野田醬油會社争議)……………一三三

野田醬油株式會社争議に關し會社側夜警中労働組合員を毆打したる事件及罷業職工復歸勸說中同會社員を傷害したる等の事件……………一三三

石井潔(同)……………一三五

前同上争議に關し罷業職工の切崩運動中の同會社員に對し裂傷を負はしめたる事件……………一三五

福島 小野恒吉外四名暴力行為等處罰に關する法律違反事件……………一三五

品川白煉瓦株式會社社員解職に原因する同社工場職工の怠業中會社側警戒係として從事中職工側幹部を毆打したる事件……………一三五

浦和 角田佐六外十名治安警察法違反事件……………一三八

中田本山鈴木工場職工が労働條件改善の要求を爲し怠業中所轄警察署に殺到せむとして多數集合し其の解散命令に背きたる事件……………一三八

千葉 高森作次郎警察犯處罰令違反事件(野田醬油會社争議)……………一四〇

野田醬油株式會社争議に關し同會社員の罷業職工復職勸誘を不快として同人を威迫したる事件……………一四〇

並木重太郎外十三名暴力行為等處罰に關する法律違反事件(同)……………一四一

前同上争議に關し同會社員等が職工側争議團集會所家屋の明渡を要求せる際暴行脅迫を爲したる事件……………一四一

同 伊藤勝一郎銃砲火藥類取締施行細則違反事件(同)……………一四四

前同上争議に關し労働組合員の争議本部の明渡交渉の爲出張中携帯許可なき拳銃を所持したる事件……………一四四

同 青木周二(同)……………一四四

前同上争議に關し労働組合員の争議本部の明渡交渉中會社側を應援の爲許可なくして拳銃を運搬したる事件……………一四四

大阪 酒井尙一外一名傷害事件……………一四五

大日本紡績株式會社橋場工場争議調停成立後同會社が同調停條項を履行せざるより之が反省を促さむとして同會社長其の他の顔面に硫酸を打掛けたる事件……………一四五

東京 天野康雄外二名暴力行為等處罰に關する法律違反事件……………一四八

王子電氣軌道株式會社従業員の待遇改善を要求し怠業中其の目的を貫徹せむとして示威運動的に同會社に殺到暴行等を爲したる事件……………一四八



札幌

寺島親藏出版法違反事件……………一四九  
札幌軌道株式會社従業員の賞與金割増及待遇改善を要求し同盟罷業中無届にて印刷物を頒布したる事件

千葉

清水錠三郎外五名暴力行為等處罰に關する法律違反事件(野田醬油會社爭議)一五〇  
野田醬油株式會社爭議に關し之と密接の關係ある丸三運送店倉庫夜警及同店従業員の護衛に従事  
中爭議團員に對し暴行脅迫を爲したる事件

同

野口三郎傷害事件(同)……………一五二  
同上爭議に關し應援中爭議の解決を促進せむとして同會社工場課人事課長の父子に鹽酸入の試験  
管を投擲傷害せしめ又裏切職工を毆打暴行し或は工場内に故なく侵入したる事件

同

飯田岩吉暴力行為等處罰に關する法律違反事件(同)……………一五四  
同上爭議に關し労働組合を脱退の裏切職工の妻を威嚇したる事件

昭和三年

千葉

染谷政市外四名暴力行為等處罰に關する法律違反事件(野田醬油會社爭議)……………一五五  
野田醬油株式會社爭議に關し通勤職工の通勤を阻止せむとして毆打暴行を爲したる事件

同

篠崎久次郎傷害事件(同)……………一五六  
前同上傷害せしめたる事件

同

稻葉清次郎外三十三名騷擾事件(同)……………一五七  
前同上爭議に關し爭議解決促進に資せむとして野田町内を爭議團員を行進せしめ途中の民家に投  
石する等の暴行を爲し香取神社附近に殺到騷擾したる事件

同

桑田清傷害事件(同)……………一六五  
前同上爭議に關し之が解決を促さむとして同會社顧問の顔面に流酸を振り掛けたる事件

岐阜

柴垣萬外三名傷害及暴力行為等處罰に關する法律違反事件……………一六六  
株式會社大林組の請負たる神岡水電株式會社の水力發電所水路工事中歴死者を生じたる因り之が  
慰養料を要求交渉中同會社員を脅迫傷害したる事件

千葉

稻葉市郎傷害事件(野田醬油會社爭議)……………一六九  
野田醬油株式會社爭議に關し同會社工場に勤務し同工場外部巡警申出會したる労働組合員を毆打  
したる事件

同

石田忠吉同(同)……………一七〇  
同上爭議に關し同會社工場夜警夫として勤務中無断同工場に侵入したる労働組合員を毆打傷害し  
たる事件

同

大江柳吉殺人未遂事件(同)……………一七〇  
同上爭議に關し同會社夜警夫として勤務中多數爭議團員より亂打せられたる復讐として四名の争  
議團員を殺害せむとしたる事件

徳島

村上俊雄外三名傷害事件……………一七二  
鳴門村に於ける鹽田爭議に關し製鹽業者組合の雇人が製鹽労働者の結束を破らむとせざるより之に  
對し毆打傷害したる事件



東京

堀越梅男請願令違反事件(野田醬油會社爭議)……………一七四  
野田醬油株式會社爭議に關し之が解決方の再三の交渉不調に終りたるより之が御裁斷を仰がむと  
して丸ビル前に於て直願を爲せむとしたる事件

千葉

石島朝吉外一名傷害事件(同)……………一七六  
同上爭議に關し裏切職工と誤信し毆打傷害を負はしめたる事件

函館

松本松吉外二名傷害及公務執行妨害事件……………一七七  
函館船渠株式會社職工の同盟罷業中集合したる罷業職工の解散を命ぜられたる際警察官に暴行傷  
害を與へたる事件

同

板垣武雄警察犯處罰令違反事件……………一七九  
同上爭議に關し虚偽の文書を印刷配布したる事件

千葉

根本清太郎外一名傷害事件(野田醬油會社爭議)……………一七九  
野田醬油株式會社爭議に關し一は労働爭議團應援者一は裏切職工にして相互に格闘して打撲傷又  
は切創を負ひたる事件

同

逆井三郎毀棄事件(同)……………一八一  
同上爭議に關し裏切職工方及會社應援の正義團員方の各兩戸を損壞したる事件

旭川

津井伊平出版法違反事件……………一八二  
旭川市道路工事請負者の貸金不拂より同請負者の子女の悪口を記載したる文書を無届頒布したる  
事件

同

洪澤警察犯處罰令違反事件……………一八三  
上富良野村荒物雜貨商店の勞銀不拂に關し文書を配付し同店の營業を妨害したる事件

盛岡

福地正治出版法違反事件……………一八四  
姉體労働爭議に關し無届にて宣傳ビラを出版頒布したる事件

千葉

諸町春吉傷害事件(野田醬油會社爭議)……………一八五  
野田醬油株式會社爭議に關し爭議解決を促進せむとして同會社作業主任に鹽酸を振り掛け傷害を  
與へたる事件

廣島

山内義徳暴力行為等處罰に關する法律違反事件……………一八六  
吳海軍工廠内四船渠土工夫を解雇せられたるは同廠技手に因るものなりとし同人を毆打したる事  
件

千葉

深井浦吉傷害事件(野田醬油會社爭議)……………一八六  
野田醬油株式會社爭議に關し丸本運送店入夫請負者を同會社側の暴力團員と誤認し同人の眼を失  
明せしめたる事件

神戸

土谷謙一出版法違反事件……………一八七  
貝卸職工の同盟罷業に關し之を説明したる印刷物を無届出版したる事件

大阪

筆義禮傷害事件……………一八九  
南海鐵道株式會社爭議に關し誠首せられ同爭議終熄したるも尙同社重役に復讐せむとして硫酸を  
同人に投擲したる事件



松山 久保峰敏出版法違反事件……………一九〇  
 近江帆布株式會社八幡濱工場に於て職工を誡首するとの風説あるより労働爭議を惹起せしめむとして之が宣傳印刷物を無届頒布したる事件  
 千葉 高橋光吉外五名住居侵入事件……………一九二  
 大同電氣株式會社田町工場職工の解雇手當増額を要求し總罷工を爲したるも解決せざるより要求を貫徹せんとして同會社長邸に侵入したる事件  
 東京 戸倉義夫外一名暴力行爲等處罰に關する法律違反事件……………一九三  
 村上電氣工場職工を解雇せられたるより之が手當を要求中雇主の住宅を損壞したる事件  
 浦和 篠原治郎吉外八名傷害事件……………一九四  
 伊藤鑄物工場従業員が其の組織せる組合公認外十二ヶ條の要求を爲し爭議中他の労働組合員の同工場勤務を見て互に争鬪之を傷害したる事件  
 大阪 間方正男外二名暴力行爲等處罰に關する法律違反事件……………一九六  
 釦製造工場主等の職工賃銀値下斷行計畫に反對同盟罷業中之が目的貫徹の爲同工場主等方に押寄せ脅迫等を爲したる事件  
 東京 出永哲同……………一九七  
 東京金網株式會社爭議に關し同社技術部長に爭議解決交渉をせむとして同家方に侵入し諸器物を毀棄したる事件  
 水戸 小幡正雄出版法違反事件……………一九八  
 伊藤印刷工場職工同盟罷業に關し同工場主を批難攻撃したる文書を無届出版したる事件

東京 大野由則外四名暴力行爲等處罰に關する法律違反事件……………二〇一  
 東京金網株式會社爭議に關し同社夜警員が爭議團側に不利なる宣傳を爲したりとして同人に暴行したる事件  
 旭川 菊地直芳外二名警察犯處罰令違反事件……………二〇二  
 小學校工事に關し其賃金を支拂はざるより其の請負人に強談威迫の行爲を爲したる事件

小作爭議に基く犯罪

昭和二年

新潟 長谷川福昌外二名暴力行爲等處罰に關する法律違反事件……………二〇五  
 菅名村地主等が聯合して作米の假差押及土地返還の請求を爲したるより其の自覺を促さむとして一地主の格子戸等を破壊したる事件  
 岡山 平川平四郎外三名脅迫事件……………二〇六  
 小作料減額要求の妨害なりとして農民組合への加入を肯ぜざる小作人を脅迫したる事件



岐阜

服部晴雄外十一名恐喝等事件……………二〇七  
土地返還の請求訴訟を提起せられ一方調停申立中地主をして主張事項を承認せしめむとして恐喝したる事件

鳥取

渡邊松治脅迫事件……………二〇九  
小作料支拂方の督促を受けたる際其の地主に危害を加ふべき勢を示して脅迫したる事件

奈良

田中清太郎差押標示無効事件……………二一〇  
小作料滞納の結果其の賃借田地を執達吏の占有に移す假處分執行を受け居る中之が標示を無効たらしめたる事件

徳島

矢部清二毀棄事件……………二一一  
小作料減免の要求中其の地主方の表門を破壊し同邸内に侵入したる事件

奈良

岡本孫太郎脅迫事件……………二一二  
小作料に付紛議中通行中の地主を脅迫し更に其の妻及他の地主等を脅迫したる事件

鳥取

渡邊美濃外三十一名騷擾事件……………二一三  
淀江町に於て小作料の減額を要求し其支拂を爲さざるより地主は支拂命令を申請し更に假差押を各小作人に順次執行せむとしたるを以て同地主方を襲ひたる事件

前橋

徳江忠衛外七名暴力行爲等處罰に關する法律違反等事件……………二二〇  
賃借田地取還せられ更に小作料督促の支拂命令を受けたるより交渉したるも承諾する處とならざりしを以て同田地の占有を移さむとして植付桑樹を堀取りたる事件

鳥取

國谷嘉一郎外一名毀棄事件……………二二二  
宛口米不拂に對する假差押を受けたるより之を不満として地主墓地の石塔等を損壞したる事件

前橋

木村米藏傷害事件……………二二三  
二、三年來の爭議に關し地主の處置を憤り同人を毆打したる事件

岡山

竹永此太郎外五名暴力行爲等處罰に關する法律違反事件……………二二三  
小作料未納の結果地主より小作田地取上の強制執行を受けむとしたる際執達吏及其代理を脅迫又は毆打し更に地主を脅迫したる事件

徳島

竹治五平外一名公務執行妨害事件……………二二七  
小作料の強制執行の爲小作人の留守宅の納屋に假封印を施したるより之を不當なりとして執達吏を脅迫し同封印を解かしめたる事件

同

稻原嘉平外三名暴力行爲等處罰に關する法律違反事件……………二二八  
新に買受けたる田地主が繼續小作を拒み之が明渡の判決を受け其の立入を禁止したるより小作人に於て之が小作する利益を得んとして同地主を脅迫したる事件

松江

高橋榮次郎外十七名同(宇賀莊村爭議)……………二三三  
小作料未納の爭議中同小作地を買受けたる地主が自作を小作人に通告したるも小作人に於て強ひて之が耕作を爲し同地主等を脅迫したる事件

福岡

安武市藏外四名同……………二三六  
地主が小作料未納の故を以て他に小作せしむるか又は自作するの意ある旨を小作人に告げたる者に對し脅迫を爲したる事件



松江

土井辨太郎業務妨害事件……………二三八  
賃借田地全部を取上げられたるより再び之が小作を爲さむとして同田地に硝子破片を投入撒布して耕作を妨害したる事件

佐賀

中島静馬外二名暴力行爲等處罰に關する法律違反事件……………二三九  
小作米納入不足分の支拂方を訴求せられ且動産の假差押を受けたるより之を支拂示談解決したるも其報復を爲さむとして地主及其の家族を畏怖せしめたる事件

奈良

木虎忠治郎同……………二四三  
地主等が會社を組織し小作米全納、土地返還の請求を爲したるより其の一地主に對し脅迫を爲したる事件

松江

林田哲雄治安警察法違反事件……………二四四  
地主より小作地返還の請求を受けたるより該地の占有を回復せむとして無届にて組合員を屋外に集合せしめたる事件

奈良

尾上龜太郎窃盜事件……………二四五  
賃借田地の明渡を履行せず更に蠶豆、裸麥の播種を爲したるより地主に於て同地明渡の強制執行を爲したる處被告に於て該農産物を收穫領得したる事件

大阪

今津武雄外七名傷害等事件……………二四七  
虫害を理由とする小作料減納に對し小作料及耕地明渡を訴求せられ更に同地の立入禁止の假處分を受けたるより之が解除を爲さしめんとして各地主方に押寄せ暴行傷害したる事件

奈良

伊田カム差押標示無効事件……………二四九  
小作料滞納の故を以て賃借田地の占有を移したる旨の公示札を引抜き投棄したる事件

千葉

池田要放火事件……………二五〇  
小作料の減額を要求したる結果地主より小作契約を解除せられ小作地立入禁止の假處分を受け且同地明渡及小作料支拂を訴求せられたるより同地主方に放火したる事件

松江

白石長太郎外一名治安警察法違反事件……………二五一  
小作地の返還を受けたる地主が自作せるを見て之が對策を講ぜむとして檢束せられたる者ありたるより之が釋放を交渉せむとして多衆運動を起し之が解散命令に應ぜざりし事件

奈良

木村小三郎外三名暴力行爲等處罰に關する法律違反事件……………二五二  
小作料を滞納せる地主より小作田の明渡假處分執行あるべきを慮り地主の通行に際し之に投石暴行を爲したる事件

高松

上村佐五郎外二十三名騷擾放火事件(土器村爭議)……………二五四  
土器村地主等が小作料減額要求を拒絶し動産稻立毛の差押を爲し更に土地立入禁止の假處分を爲したるより之が對策として多數小作人を集合演説會終了後各地主方を順次に襲ひ騷擾し歸途一地主方に放火したる事件

松江

江田兼儀脅迫事件……………二六二  
小作料不拂に依る土地立入禁止の假處分を爲したる地主に對し脅迫を爲したる事件

大阪

井側藤松外五名傷害等事件……………二六三  
虫害、水害を理由として小作料の減額を要求したる處地主等は土地會社を組織し、土地明渡及小作支拂請求の訴を起し立入禁止の假處分を爲し同會社雇人をして同田地の耕作を爲さしめたるより同人を傷害し耕作を妨害したる事件



松江

井塚勝正外二名同……………二六五  
兇作を理由として小作料を納付せざりしより地主は小作地の立入禁止の假處分を爲し雇人をして同地の耕作を爲さしめたる處雇人等が他の小作組合員の田地に立入たるより之を詰り毆打傷害したる事件

神戸

清水米四郎外二十一名騷擾事件(神戸村爭議)……………二六六  
神戸村爭議に關し立毛の差押及小作地立入禁止の假處分を受けたるより之が反對示威運動を爲さむとして各地主方に殺到し騷擾を爲したる事件

鳥取

大山初太郎外十名傷害等事件……………二七〇  
西伯郡下七ヶ村の爭議に關し地主側は土地會社を組織し小作人側は小作料九割減を要求し抗爭中地主側が動産差押を爲さむとしたるより之を阻止せむとして執達吏、警察官及其他に暴行脅迫傷害を與へたる事件

福岡

樫島徳太郎外十一名暴力行為等處罰に關する法律違反事件……………二七七  
地主に於て買受けたる田地に其の雇人をして挿苗せしめたる處従來の同地小作人に於て引續き耕作を爲さむとして同苗を引抜き之を毀棄したる事件

大阪

八上庄太郎外二十六名騷擾事件(甲可村爭議)……………二七九  
甲可村爭議に關し小作人は虫害を理由として小作料の減免を要求し地主は之に對し土地會社を設立抗爭中地主側は土地明渡及建物收去延滞賃料支拂請求の訴を提起し更に立入禁止假處分を爲したるより各地主方に殺到し喧嘩したる事件

奈良

山田己之助外四名傷害事件……………二九三  
小作料滞納の結果小作地返還を訴求せられ更に同地明渡の處分を受け地主の自作せむとするを中止せしめむとして其雇人を毆打暴行負傷せしめたる事件

福岡

田島勇藏外十二名業務妨害事件……………二九六  
前年の爭議に因り一旦地主に返還したる田地を更に小作せむとして地主雇人の耕作せるを中止せしめ之に植付を爲したる事件

岐阜

山田忠雄毀棄事件……………二九七  
小作料を納付せざるより小作人に於て植付けたる耕作物を損壞したる事件

岡山

宮向國平外四名脅迫事件……………二九八  
立入禁止の假處分を爲したる小作地を他に耕作せしめたるより之を中止せしめむとして同小作人等該田地に凄慘なる蛇の繪を畫きたる木札を建て脅迫したる事件

奈良

萩原久吉業務妨害事件……………三〇〇  
小作田地明渡の假處分を爲し地主に於て稻苗の植付を開始せるを阻止せむとして脅迫し其の植付作業を中止せしめたる事件

松山

林田哲雄外一名偽證事件……………三〇一  
爭議に關し無届集合に依り治安警察法に問はれたる事件に付宣誓證人として黙秘及虚偽の陳述を爲したる事件

奈良

下口榮三郎傷害事件……………三〇四  
小作調停條件に關し毆打傷害せしめたる事件

安濃津

上田善右衛門同……………三〇四  
競落に因り取得したる地主が其の田地引渡を訴求し且立入禁止の假處分を爲し更に雇人をして耕作せしめ居るを憤り雇人に創傷を負はしめたる事件

目

次



奈良

溝端松太郎治安警察法違反事件……………三〇五  
警察署長の爲したる屋外集合又は多乘運動を禁止する旨の命令に反し組合員を集合し稻刈を爲したる事件

同

堂本留吉同……………三〇六  
同上

水戸

小更茂三郎外八名暴力行爲等處罰に關する法律違反事件……………三〇七  
小作料を納付せざりし爲地主等に於て小作地稻立毛假差押を爲さむとしたるより同地主等に對し脅迫したる事件

札幌

松岡二十世警察犯處罰令違反事件……………三〇九  
月形村争議に關し地主に面會を求めたる際小作人側の面會強請に聲援幫助したる事件

奈良

松本楠松傷害等事件……………三一〇  
小作田明渡敗訴の結果其の強制執行を受けたる後同田地地主たる會社雇人の耕作を中止せむとして之に暴行し其の業務を妨害し又は傷害したる事件

岐阜

平工喜市公務執行妨害事件……………三一二  
争議に關し架稻の假差押執行中執達吏に對し其の職務の執行を妨害したる事件

奈良

吉川榮次郎外二名暴力行爲等處罰に關する法律違反事件……………三一三  
小作米不納の爲地主より小作田に對する假處分を受けたるより同地の稻架を倒し稻穂を倒落したる事件

松江

佐藤初次郎外十一名同……………三一四  
小作料不納の爲立稻に對し假差押を受け更に其の換價競賣に際し地主及其の家族を傷害又は脅迫したる事件

岡山

森近逸夫出版法違反等事件……………三一八  
未納小作米の爲立稻等の假差押を受けたるより地主を脅迫し其の差押を解除せしめむとしたりと  
の事件及駐在所巡查を糺彈する旨の印刷物を無届頒布したる事件

安濃津

島岡二三男外三名暴力行爲等處罰に關する法律違反事件……………三二二  
小作米滞納の爲地主より小作米及土地返還請求の訴を提起せられ更に同地の立入禁止の假處分申請を受けたるより示談解決を爲さむとして之が交渉中地主に對し脅迫暴行を爲したる事件

岡山

皿井弘外十九名脅迫等事件(北川村争議)……………三二五  
北川村小作人等は小作減額を要求し拒絶せられ小作米を訴求せられ尙家具の假差押を受け更に稻立毛假の差押を順次に受けむことを虞れ地主に對し暴行脅迫し、神祠に不敬行爲を爲し、又地主代人方に放火したる事件

岐阜

高崎政一外十一名暴力行爲等處罰に關する法律違反事件(一色村争議)……………三三八  
一色村農民組合員が小作米不納の爲訴求し且稻立毛の假差押を爲し更に換價命令に依る同立毛の刈取を爲さむとしたる地主等の業務を妨害せむとし暴行脅迫を爲したる事件

旭川

阿保藤太郎外三名恐喝事件……………三四二  
小作に關し地主代理人を恐怖せしめ念書を交付せしめたる事件



松江

山崎豊定外十五名公務執行妨害事件(赤江村争議).....三四四  
従前より争議に關し動産の差押を受けたる上更に立稻及架稻の差押を受け之が競賣せらるるに際し安價に競落せむとし執達吏及地主代理人等を脅迫し一時中止したる競賣手續を再開執行せしめたる事件

釧路

大野喜太郎恐喝事件.....三四八  
小作米の減額要求の交渉を爲さむとして先に納付したる一部小作米の返還を強要し之を交付せしめたる事件

岡山

難波重平外二十六名窃盜事件(藤田村藤田組兒島農場争議).....三四九  
藤田村争議に關し地主會社に對する反感及自己利慾並會社をして反省せしめ争議解決を促進せむとして同會社所有の稻穂を窃取したる事件

鳥取

松本きりの外七名暴力行爲等處罰に關する違反事件.....三五四  
小作料の減額を要求し之を支拂はざるより小作料及小作地返還を訴求せられ且同地を執達吏の管理に移す等の旨の假處分を受けたるを以て地主をして該訴訟を取下げしめんとして地主方に押寄せ脅迫等を爲したる事件

松山

清水甚八同.....三五七  
小作料不拂なりしより地主より其の請求あらむことを虞れ之を防止せむとして獵銃を發砲して地主及其家族を脅迫したる事件

昭和三年

奈良

川村吉藏傷害事件.....三五八  
小作料の減免方を仲介人を通じ地主に交渉中同仲介人と被告との間の意思疎通を欠きたることより同人に刺傷を負はしたる事件

安濃津

中谷富藏外三名恐喝事件.....三六〇  
小作米及土地返還の請求訴訟並に土地立入禁止假處分を受けたる小作人中の一部の者が組合を脱退し地主と和解したるより同脱退者を恐喝して各種名義の下に金品を交付せしめたる事件

同

山川勘四郎放火事件.....三六三  
小作米及田地明渡請求の訴を提起せられたるより之が報復として地主を脅威し且争議を有利に解決せむとして同地主の納屋一棟を放火焼燬したる事件

秋田

細竹五郎窃盜事件.....三六四  
賃貸小作料の減額を要求せられ其の一部を容認したるも其の差額を納付せざるより小作人等方の玄米を擅に搬出し去りたる事件

同

澤田松太郎外一名騷擾事件.....三六六  
小作料の減額を要求し之を未納中地主の爲に其の意に反し搬出せられたるより之を奪還せむとして部落民をして同地主方に殺到侵入し騷擾したる事件

奈良

森村熊一郎外二名傷害事件.....三六七  
農民組合の小作料減免問題等に付反目嫉視中傷害を爲したる事件

神戸

中島作太郎外五名暴力行爲等處罰に關する法律違反事件.....三六九  
従來の小作地を繼續耕作せむとして新地主及其の仲介人に交渉したるも容るる處とならざりしを以て村八分として右兩人に絶交を申渡したる事件

旭川

吉田吉之助出版法違反事件.....三七三  
争議に關し無届にて地主攻撃の印刷物を頒布したる事件



奈良

野口鶴吉外一名暴力行為等處罰に關する法律違反及傷害事件……………三七五  
小作料の減額を要求し之を全納せざりしより地主は小作地立入禁止假處分を爲し人夫をして耕作せしめたるを以て小作人等は同地に押寄せ人夫等に對し暴行脅迫傷害を加へたる事件

新潟

青木岩三郎外十一名傷害及騷擾事件(五泉鄉村爭議)……………三七七  
小作料減免の爭議調停委員會開催の前日小作人等が共同田打を爲さむとして集合中小作人幹部が檢束せられたるより之を奪還せむとして警察官に暴行し騷擾を爲したる事件

安濃津

向出松兵衛脅迫事件……………三八一  
小作米未納の爲之が請求の訴を提起せられ且小作地の樹木を賣却せられたるより之を憤り地主に對し獵銃を擬し脅迫したる事件

仙臺

矢後利一外七名騷擾事件(前谷地村爭議)……………三八二  
小作米不納等の理由にて地主より小作地を取上げられむとしたるより之が小作權回復の爲同地の共同耕作を爲さむとしたる際取締警察官の爲に多數集會の解散を命ぜられ主會者を檢束せられたるより警官との間に亂闘を生じたる事件

秋田

高桑彌三郎暴行事件……………三八五  
小作係争中毆打暴行を爲したる事件

同

小松田養吉警察犯處罰令違反事件……………三八五  
養父よりの小作地を離別後も尙繼續せむとして同地の出入を禁止したる繩張を除去して出入を耕作したる事件

同

高橋多右衛門放火事件……………三八六  
小作米滞納により地主より小作地を取上げられたるより再三其の耕作繼續を懇請したるも拒絕せられ且つ他に該地を小作せしめ居るを知り地主住宅及其の他の小屋に放火したる事件

安濃津

藤波彌宗吉同……………三八八  
小作米を納付せず地主との間に訴訟繼續中農民組合を脱退したる爲同組合支部より借受けたる訴訟費用及同支部會計係より借受けたる金員の支拂方の督促を受むたるより同會計係方納屋に放火したる事件

千葉

鶴澤福太郎傷害事件……………三八九  
小作料不納の爲小作田立入禁止の假處分を受け地主は雇人を使役して同地の耕作を爲さむとしたるより之を妨害し且耕作者に負傷せしめむとして硝子破片を同地に投入し右雇人に傷害し其の業務を妨害したる事件

鳥取

坂本吉平外三名暴力行為等處罰に關する法律違反等事件……………三九〇  
小作料の減額を要求し之を納付せざる小作地主等は小作地明渡を訴求し且同地に對する假處分を爲したるが之が執行の執達吏及地主に對し暴行脅迫等を爲したる事件

秋田

高岡恭治外二名警察犯處罰令違反事件……………三九五  
爭議に關し地主の占有する田地に立入り田植を爲し同地主の田植を妨害したる事件

鳥取

植田定一外一名傷害事件……………三九六  
爭議に關し土地立入禁止假處分執行に立合ひたる地主代理人に對し毆打し傷害したる事件



神戸

田中平治郎殺人事件(農民組合幹部家族殺傷事件).....三九七  
小作地の返還を求め農民組合と反目紛争中同組合長一家を襲殺せむとして其の家族三名を死に致らしめ他の三名に重傷を負はしたる事件

松江

岩谷惣吉外一名水利妨害事件.....三九八  
小作人等に對し土地返還及賃貸料を訴求したるより地主耕作の水田に穴を穿ち其の水を流出せしめたる事件

鳥取

勝部文一差押標示損壞事件.....四〇〇  
小作料不拂の爲小作地を地主の管理耕作に移し且小作人の處分行爲を禁止する假處分を受け其の公示札を損壞したる事件

同

京力正治同.....四〇一  
小作料不拂の爲小作地の假處分を受け其の公示標を損壞したる事件

岐阜

木村秀次郎外十三名傷害事件(池邊村争議).....四〇二  
新地主が小作地引渡を訴求したるより小作人側の申立により同地を無條件引渡す調停成立し地主之が耕作を開始したるを憤り之に對し傷害を負はしめたる事件

安濃津

伊藤庄之助同.....四〇四  
轉借小作中地主より小作地返還を求められ地主が該地に立入耕作し居るより之を口論の末毆打裂傷を負はしめたる事件

神戸

山本正信外四名暴力行爲等處罰に關する法律違反事件.....四〇五  
小作地立入禁止の假處分を受けたるより之を回収せむとして植付たる稲苗を毀棄したる事件

仙臺

松本紉外一名同.....四〇六  
従來小作し居りたる田地を新地主が他に小作せしめたるより之が繼續耕作を爲さむとして新小作人の植付せる稲苗を損傷したる事件

松江

山本茂一郎同.....四〇七  
小作地に對し地主に於て耕作せしむる假處分を受け地主は雇人を使用して挿苗せしめたるより雇人を脅迫したる事件

鳥取

西村朝玄外一名住居侵入事件.....四〇八  
地主會社より小作料支拂を請求せられたるを憤り同會社内に侵入し同會社員を脅迫したる事件

安濃津

西口一藏傷害事件.....四〇九  
地主が小作争議調停に際し小作人に不利なる主張を爲したるより之に創傷を負はしたる事件

秋田

奈良福太郎脅迫等事件.....四一〇  
土地返還敗訴の結果稲毛の儘地主に之を引渡したる處地主使用人は之を刈取脱穀したるより小作人等は耕作植付料の斟酌方申込みたるも之に應ぜざる爲右田地看視人現在の小屋附近にてダイナマイトを爆發せしめたる事件

札幌

中山作次郎同.....四一一  
小作人の小作米減額又は未納を虞れ稻立毛の假差押を爲したる地主に對し脅迫したる事件

鳥取

平井運毀棄事件.....四一二  
小作料を支拂はざるより地主より土地立入禁止の假處分を受けたる爲之を駐在巡査の使職に因るものとなし同駐在所硝子窓等を損壞したる事件



岡山

内田正太郎殺人事件……………四一三

安濃津

池端勤七外三名傷害事件……………四一五

小作地返還等請求訴訟を小作人側に有利に轉回せしむる爲其主張に應ぜしむべく地主代理辯護士の顔面に傷害を加へたる事件……………四一七

労働運動に基く犯罪

昭和二年

水戸

綿引武六外名傷害及暴力行爲等處罰に關する法律違反事件……………四一九

盤城炭礦株式會社争議後更に大日本礦夫組合員が其の加入者を求め同支部の發式を舉行せむとするの狀況ありたるより會社側を擁護し之等組合員の策動を阻止せむとして右組合に暴行脅迫傷害を與へたる事件……………四二〇

大阪

原彦次脅迫事件……………四二〇

大阪一般労働組合に加入方勸誘したるも之に應ぜず却て反動的團體を組織せむとしたるより其の目的を達せむとして脅迫文書を郵送したる事件……………四二〇

秋田

平山忠尙出版法違反事件……………四二一

秋田合同労働組合組織首謀者と認められ秋田驛員を誣首せられたるを以て之を廣く鐵道従業員に訴へむとして無届出版及所定事項を記載せざる印刷物を頒布したる事件……………四二二

同

佐藤謙藏外一名同……………四二二

前記誠首問題に關する演說會を開催するに際り多數の聽衆を集めむ爲其の宣傳ビラを無届出版し所定の事項を記載せざりし事件……………四二四

福島

石井滿警察犯處罰令違反事件……………四二四

労働演說會其他の運動費の寄附を強請したる事件……………四二五

千葉

山本源次郎出版法違反事件……………四二五

労働歌と題する歌詞を無届出版したる事件……………四二七

宇都宮

市川金太郎外七名傷害事件……………四二七

關東紡績労働組合支部の組織を聞知したる勞資協調團體たる大谷石材従業員共濟會員は之を阻止せむとして右組合員に對し毆打傷害を與へたる事件……………四二九

前橋

角田佐六出版法違反事件……………四二九

労働組合加入勸誘及無産者新聞の使命を宣傳及其購讀方を勸誘する文書を無届にて印刷頒布したる事件……………四三〇

昭和三年



福島

蛭田辰藏外一名傷害及暴力行為等處罰に關する法律違反事件……………四三二

京都

三井炭礦株式會社湯本鑛業所坑夫團結の宣傳を爲したる者に對し暴行を爲したる事件……………四三四

松江

鮮人團なる名を以て労働賃金に關する廣告を爲したる者に對し營業不利なりと爲し其の取消廣告を爲すべしと要求脅迫したる事件……………四三五

静岡

福田理三郎治安警察法違反事件……………四三五

水戸

メーデー當日同志と分乗せる二臺の自動車にピラを貼付し屋外に於て多衆運動を爲したるに成規の届出を爲さざりし事件……………四三六

長野

鈴木研二出版法違反事件……………四三六

青森

鈴木正一同……………四四六

労働條件の維持改善労働者階級の團結を強調したる「何者ノ爲メノ國際労働會議」等の標題の文書を無届出版したる事件……………四四六

北原龜二外一名同……………四四六

福島製材所職工の解雇せらるること爲りたるより同所職工等に對し労働組合の團結に依り資本家に對抗すべき旨の宣傳を爲さむとし又養蠶家に對する當局者の措地を非難したる文書を各所定の事項を記せず無届出版したる事件……………四四六

山田義三郎同……………四四八

大港木材株式會社職工の労働時間短縮賃銀値上等を記載せる冊子及知事の公選、府縣の完全なる自治制、地方的農民政府の樹立等を記載せる冊子を無届出版したる事件……………四四八

岡山

高橋鶴吉外一名治安警察法違反事件……………四七〇

釧路

福島紡績株式會社笠岡分工場職工より成る福友會が漸次日本労働總同盟員を切崩しつつあるを阻止せむとする爲の檄文を警察官より配布禁止せられたるに拘はらず之が命令を肯せざりし事件……………四七一

同

赤井儀太郎出版法違反事件……………四七一

前橋

一般労働者に配付する目的にて不景氣の原因及景氣恢復策は労働者團結して労働條件を改善するにある旨を記載したる文書を印刷し所定の事項を記載せざりし事件……………四七二

青森

松澤徳哉同……………四七二

鳥取

労働組合を組織せむとし工場安全週間の機會を利用し同組合員を糾合する爲の檄文を無届出版し且つ所定の事項を記載せざりし事件……………四七四

釧路

加藤春雄同……………四七四

燃糸織物製造池田工場の職工をして同盟罷業を爲さしめ以て労働條件を有利に轉換し又労働組合の勢力を擴張せむとして職工等に頒布したる印刷物の所定の届出を爲さざりし事件……………四七五

山中勝衛同……………四七五

新黨組織準備會弘前支部の演說會が解散を命ぜられたる際に反對する印刷物を頒布し又労働者は労働組合に参加すべき旨の印刷物を發行するに當り所定事項記載せざりし事件……………四七七

末次忠太郎同……………四七七

労働争議を煽動する文書を無届出版頒布したる事件……………四七九



農民運動に基く犯罪

昭和二年

鳥取

瀬田藤治外二名警察犯處罰令違反事件……………四八五

日本農民組合山陰聯合會主催の講演會々場たる劇場借入方に關し同場代表と交渉中同人に對し強  
談威迫の行爲を爲したる事件

同

藤原初太郎外二名脅迫事件……………四八六

一部落民が小作組合に加入せざるより同組合總會に諮り之に對し組合員一同が絶交の決議を爲し  
同人に通告脅迫したる事件

前橋

新島瀧三郎外四名暴力行爲等處罰に關する法律違反事件……………四八七

小作人に依り組織せる藤阿久農事改良組合に加入せず更に地主及小作人にて藤阿久振興農事組合  
を組織せむとして其の組合の加入勧誘を爲し居る者に對し之を阻止せむ爲脅迫暴行を爲したる事  
件

鳥取

神原篤太郎外四名恐喝事件……………四八九

小作組合に加入せざる者に對し之と絶交を決議通告して同人より和解金名義の下に金三十五圓を  
交付せしめたる事件

奈良

野澤啓治郎傷害事件……………四九〇

日本農民組合員の採れる農民運動に反感を抱き其幹部の行動を憎惡せる折柄日本農民組合奈良聯  
合會爭議部長に出會し同人に重傷を負はしたる事件

新潟

渡邊安造暴力行爲等處罰に關する法律違反事件……………四九一

小作人の組織せる振農會を脱會せる者が轉借せる小作地に施肥を爲すことを中止せしめむとして  
脅迫したる事件

鳥取

源原彦三恐喝事件……………四九二

日本農民組合山陰聯合會を脱會後生業資金を得むとし又全日本農民組合山陰聯合會を組織し其運  
動費に充てむとして資産家なる叔父を脅迫して金三百五十圓及百五十圓の小切手を交付せしめた  
る事件

松山

高橋貞次外二名暴力行爲等處罰に關する法律違反事件……………四九六

日本農民組合愛媛縣聯合會石根村大頭支部員に對し同組合メーデーに参加せざることを懇らしめ  
むとして同人に對し暴行を爲したる事件

札幌

石田松四郎外一名出版法違反事件……………四九八

三井農場管理人が小作人に横暴なるに因り之を排斥するの輿論を喚起する要ありとして之を攻撃  
排斥する趣旨を記したる印刷物を無届出版頒布したる事件

松江

中山春樹外一名治安警察法違反事件……………四九九

屋外に於ける農民運動に關する講演を爲したるに其の届出を爲ざりし事件

岡山

重井鹿治名譽毀損事件……………五〇〇

北海道農業技手等の農業問題に關する處置を不快とし同人が收賄したるが如き事實を記載した  
る印刷物を頒布して其の名譽を毀損したる事件

旭川

西尾音吉出版法違反事件……………五〇一

峰須賀農場解放に反對せむとして無届出版頒布したる事件



神戸 梅川文男同……………五〇三  
 「麥検査反對運動情報」其の他數項に亘る印刷物を無届出版し所定の事項を記載せざりし事件  
 岡山 藤本鹿太郎水利妨害事件……………五一六  
 小作地に灌漑用水を引くに際し其上流の地主研究会共同耕作田地に在りたる用水を流出せしめた  
 る事件  
 鳥取 佐々木隆太郎出版法違反事件……………五一七  
 日本農民組合山陰聯合會の主義宣傳の爲同組合加入方を勧誘する旨の印刷物を出版頒布するに際  
 し所定の事項を記載せず且其届出を爲さざりし事件  
 奈良 宮本政市外一名業務横領事件……………五二四  
 日本農民組合岡支部の會計係として積立米賣却代金及積立金を保管中約千八百餘圓を自己の用途  
 に費消したる事件  
 岡山 難波孝夫外二名出版法違反事件……………五二五  
 「ゴクドウ地主藤田組チャツケロ」を頒する印刷物を無届出版したる事件  
 神戸 山口勘一外一名同……………五二六  
 警察署長攻撃及小作料減額要求の趣旨を記載したる印刷物を無届出版したる事件  
 秋田 今村英雄治安警察法違反事件……………五三一  
 村政批判演説會集會の禁止を肯せず同會を開き更に同會に於ける演説中止及同會解散の命令に背  
 き多業行進運動を爲したる事件

神戸 長尾正作出版法違反事件……………五三三  
 村政問題を提へて農民を煽動し全國農民組合員を獲得せむとする印刷物に所定の事項を記載せず  
 無届出版したる事件  
 釧路 赤井儀太郎同……………五三四  
 日本農民組合運動の趣旨及綱領等を宣傳する爲の印刷物を無届出版したる事件  
 同 警察犯處罰令違反事件……………五三五  
 「弱者ハ唯ダ團結アルノミダ吾等ノ耕地と食ヒ荒ス害鳩アラバテツテ的ニヤツツケロ日農北見  
 出張所」を記載せる印刷物を他人の家屋其他に貼付したる事件  
 岡山 重井鹿治文書偽造及出版法違反事件……………五三六  
 日本農民組合支部の結束を維持し其分裂を防かむとして在監中なる前同支部長の氏名を冒書し  
 其の署名を偽造して同人名の文書を支部員に交付し又藤田農場の落穂窃盜事件の犯罪を曲庇し之  
 を救護する文書を印刷して届出等を爲さざりし事件  
 昭和三年  
 秋田 小野要治毀棄事件……………五三八  
 地主の横暴なる處置を怨み農民組合支部旗を以て同人方表門板を突破りたる事件  
 青森 大澤喜代一出版法違反事件……………五三九  
 「小作人團結の力を見よ」に悪地主を風服さす全國の小作人組合」と題する印刷物に所定の事項を  
 記載せず且其届出を爲さずして出版したる事件



鳥取

遠藤元市外一名同……………五四一

同

小作爭議に因る淀江騒擾事件の一週年に當り之に關する印刷物を無届出版したる事件……………五四一

同

河津千万人治安警察法違反事件……………五四二

神戶

無届にて地主に對する示威運動として多乘行進を爲したる事件……………五四二

秋田

河合秀夫外一名出版法違反事件……………五四二

秋田

日本共產黨事件に付入監したることに關し之が宣傳の爲の印刷物を日本農民組合員に頒布するに當り無届出版したる事件……………五四二

秋田

根本賢藏同……………五四五

鳥取

官廳の處置及地主の行動を非難し演說會に參集を勧誘する旨の印刷物に所定の事項を記載せず無届出版したる事件……………五四五

鳥取

國谷嘉一郎治安警察法違反事件……………五四七

宇都宮

無届にて日本農民組合支部共同して立入禁止反對示威運動として同支部員一隊となり行進したる事件……………五四七

宇都宮

植竹謙太郎外二名暴力行爲等處罰に關する法律違反事件……………五四八

鳥取

小作人組合員の同組合脱退は地主側に豫て厚意を有する者の勧誘に因るものさなし又同人が地主と共同耕耘を爲したるより之を憤り同人妻を脅迫したる事件……………五四八

鳥取

田村政市出版法違反事件……………五四九

鳥取

「親よりも子よりも大事な田畑を奴らに取られてなるものか」「俺たちの生命をさるよな鬼地主よつてたかつて打のめせ」と記したる印刷物を無届出版したる事件……………五四九

名古屋

山口安次同……………五五〇

京都

「今日の百姓の苦しいのは何う言ふ譯か」「養蠶家と團結せよ」と題する印刷物を無届出版したる事件……………五五〇

京都

森英吉同……………五五三

千葉

農民組合の過去現在並に將來の運動に關し叙述したる印刷物を無届出版したる事件……………五五三

千葉

細谷廣吉同……………五五四

千葉

「全國農民組合千葉地區戰線ニュース第十號」と題するもの及小作料減額を要求し成功したる旨を記載せる印刷物を無届出版したる事件……………五五四

松江

谷口直平同……………五六四

岡山

「立入禁止をケ飛シテ持田坂本爭議大勝利全小作人諸君鐵ヲ擔イテ農民組合へ」と題する印刷物に所定の事項を記載せず且無届出版したる事件……………五六四

岡山

田中正夫同……………五六五

岡山

全國農民組合聯合會書記にして出版法違反に依り言渡されたる罰金不完納の爲勞役場留置處分に付せられむとすたる者の爲に贖金の上下罰金を代納せむとして同人を救護する趣旨の印刷物を同組合員に頒布したる事件……………五六五

札幌

喜多幸章外一名名譽毀損及出版法違反事件……………五六六

札幌

小作爭議の調停に當り警察署長の採りたる處置を不快とし之を排斥せむとして其名譽を毀損し並に小作人は同爭議の地主に抗爭すべき旨の印刷物を無届出版したる事件……………五六六



政治運動に基く犯罪

昭和二年

神戸

三宅右市外一名出版法違反事件

.....五六九

勞農黨支部幹事警察官の處置に關する出版物を無届頒布したる事件

新潟

石附榮一治安警察法違反事件

.....五七一

勞農黨員中頒布禁止を命ぜられたる議會解散に關する印刷物の趣旨を多衆に徹底せしめむとして頒布したる事件

奈良

保田榮一公務執行妨害事件

.....五七二

勞農黨縣聯合大會に際し中止を命ぜられたる辯士逮捕を阻止せむとして該巡查を殴打傷害せしめ公務の執行を妨害したる事件

岡山

白髮磯太郎治安警察法違反事件

.....五七三

勞農黨支部總會に於て演說中之が中止を命ぜられたるに尙之を續演したる事件

同

真砂隊市同

.....五七四

勞農黨の主義宣傳の爲の政談演說會開催に際し之が届出を爲さざりし事件

京都

長壁民之助出版法違反事件

.....五七四

勞農黨支部の名義を以て爲したる村政に關する印刷物を届出づして頒布したる事件

昭和三年

新潟

三宅正一治安警察法違反事件

.....五七六

日勞黨支部事務所の設置届を爲さざりし事件

函館

板垣武男外二名出版法違反事件

.....五七七

勞農黨支部員中總選舉に關する印刷物を無届頒布したる事件

仙臺

袖井開治安警察法違反事件

.....五七八

勞農黨、社民黨支部主催の政談演說會の辯士として演說中其の中止命令に應ぜざりし事件

同

生沼曹久公務執行妨害事件

.....五七九

前同事件に付同辯士を逮捕せむとしたる巡查に暴行し其職務の執行を妨害したる事件

宇都宮

黒澤伸三郎治安警察法違反事件

.....五八〇

總選舉に際し政見發表演說會に於て演說中之が中止命令に應ぜざりし事件



岡山

長門博外二名業務横領事件……………五八〇  
労農黨支部員にして農民組合支部の預金保管中縣會議員及衆議院議員選舉費用等に充當費消したる事件

長野

池田林出版法違反事件……………五八二  
労農黨の主義を實行すべき旨の印刷物を無届頒布したる事件

静岡

川口芳雄外一名同……………五八三  
労農黨員にして發賣頒布禁止差押處分を受けたる印刷物と同一内容のものを出版したる事件

福島

森山賢出版法及治安警察法違反事件……………五八五  
労農黨支部員にして田中内閣を攻撃し労農黨同志を激勵したる無産新聞を無届出版し、労農黨解散命令に應ぜず同黨支部名義の印刷を出版し該命令に違背したる事件

秋田

梅田吉春警察犯處罰令違反事件……………五八六  
労農黨に入黨勧誘のビラを濫りに工作物に貼付したる事件

盛岡

佐々木文一出版法違反事件……………五八七  
聲明書と題し労農黨解散に關する印刷物を無届頒布したる事件

長野

濱島惣一外十四名警察犯處罰令違反等事件……………五八九  
新労農黨支部準備會主催の治安維持法及出兵反對政談演說會が解散を命ぜられたるより其の理由を詰問せむとして警察署に押寄せ喧嘩したる事件

福岡

芳賀幸平出版法違反事件……………五九一  
民憲黨支部創立に際り其の黨員勧誘の目的を以て無届出版したる事件

長野

茂原繁同……………五九二  
新黨準備會に關する印刷物を無届頒布したる事件

福岡

中尾新一新聞紙法違反事件……………五九七  
新黨準備會員にして其の支部名義を以て出版法違反事件に付裁判所に繫屬せる事實に關し安寧秩序を紊亂する記事を筑後民衆新聞に掲載したる事件

静岡

増田可一郎外三名傷害事件……………五九八  
新労農黨組織準備會支部が官憲糾弾演說會を開催したる際演說の中止を命ぜられ更に之に抗議を申出でたる者を檢束せむとしたるより之を妨害せむとして立會警察官に傷害を與へたる事件

長野

茂原繁縣令違反事件……………六〇〇  
労農黨組織準備會支部設置の爲同志を糾合せむとして不穩文書を貼付したる事件

水戸

鈴木網藏新聞紙法違反事件……………六〇二  
發賣頒布禁止を命ぜられたる日本勞農新聞を頒布したる事件

秋田

大槻喜一外一名出版法違反事件……………六〇二  
新黨準備會の演說會を開催するに際し其趣旨を聽衆に宣傳せむとして無届出版し且所定の事項を記入せざる事件



目次

高岡恭治外四名森林法違反事件……………六〇八  
社民黨支部の資金及其の他の債務の辨済に充てむとして立木三千圓價格のものを盗伐したる事件

水平運動に基く犯罪

昭和二年

安濃津 谷岡富五郎外四名恐喝事件……………六〇九  
「藤ノ新平ニモ権茸ヲ作ル偉イ人ガアル」との雑談中の言辭を以て差別的のものとなし百圓及十圓を兩度に交付せしめたる事件

静岡 小山紋太郎出版法違反事件……………六一〇  
水平部落民の絶對的解放、經濟、職業の自由を宣傳せむとして印刷物を無届出版したる事件

福岡 宮田富太郎外三名警察犯處罰令違反事件……………六一一  
失言事件が既に解決したるに拘はらず未解決なりとなし謝罪文の交付、謝罪宣傳ビラの配布及謝罪廣告の實行を迫り又居村上下兩區の合併問題に關し失言したりと爲し同様の謝罪方法を要求したる事件

和歌山 石井惣吉外二名恐喝脅迫事件……………六一四  
「エッタボシ」と放言したるより之を差別的言辭として糺彈に藉口して金十四圓相當の飲食の提供を受け更に此の事實を口外したりと爲し脅迫したる事件

安濃津 柏木圓次郎傷害事件……………六一七  
豫て亦平社同人に對し差別的言辭を用ひたる者に其の理を難詰中同人を毆打し傷害を負はしたる事件

浦和 中村重次郎外六名恐喝事件……………六一七  
「テヨウリンボー」失言したる者三名より三度に金品十七圓を恐喝交付せしめたる事件

昭和三年

熊本 吉川豊記傷害事件……………六二〇  
「テヨウリンボー」なる言辭を弄したる失言を糺彈したるに之を否認したるより同人に對し毆打傷害したる事件

安濃津 岸田鶴吉傷害事件……………六二一  
水平社の機關紙「民聲新聞」に對抗する三重水社新聞の發行は水平運動の統一を缺くものとして同發行者を詰問中に打撲傷を負はしたる事件

奈良 東元兼祐外四名傷害事件……………六二一  
「穢多ノ精米所云々」と差別的言辭を弄したるもの如く聞き誤り之を糺彈すべく打撲傷を負はしたる事件



熊本

鈴木惣八外二名暴力行為等處罰に關する法律違反事件……………六二三  
酒宴中の者に對し「チャウリンボー」と叫びたるは何人なるやと虚構の事實を以て怒號脅迫し暴行したる事件

福岡

井塚福太郎外二名同……………六二四  
「穢多ゴロ」を稱したる由を聞き之を詰問し同人に對し暴行脅迫を爲したる事件

反動運動に基く犯罪

昭和二年

福島

小野恒吉外六名暴力行為等處罰に關する法律違反事件……………六二五  
日本労働總同盟及日本坑夫組合に反感を有し居りたる折柄同坑夫組合員に暴行せられたりと稱し同組合支部事務所其の他を襲ひ暴行毀棄傷害を負はしたる事件

奈良

今田森之助外三名同……………六二七  
大日本白龍會を組織し水平社及農民組合に對抗し其の襲撃に備ふる爲武器を用意中飲酒の結果拳銃を發射したる爲附近住居者に告められたるより之を脅迫格闘したる事件

札幌

五十嵐喜三郎傷害事件……………六三〇  
小樽合同労働組合に反感を有する中心會員が同組合より面罵せられたるを憤り同組合執行委員長に面會を強請し双方格闘の末同人及其の他に傷害を加へたる事件

同

氏家敬太郎同……………六三一  
同上事件

東京

中溝多摩吉外八名恐喝及暴力行為等處罰に關する法律違反事件（立憲大同聯盟員事件）……………六三二  
立憲大同聯盟員なる處東京日日新聞寫眞畫報掲載の御尊影及雜誌キング掲載の滑稽誘呂合と題する欄内記事に關し其の發行所を恐喝金員を交付せしめたる事件

昭和三年

東京

富田鎮彦恐喝事件……………六三九  
明徳會員なる處朝日グラフ掲載の東久瀨宮殿下御寫眞に關し不敬なりと爲し東京朝日新聞社庶務部長を恐喝金員を交付せしめたる事件

同

神保幸三郎外九名暴力行為等處罰に關する法律違反事件（露國大使館煙花玉事件）……………六四〇  
建國會員にして露大使が無産政黨に總選舉に際し選舉費を供給したりと爲し同大使館邸内及労働農民黨本部内並に同黨首邸内にて煙花玉を爆發せしめ脅迫したる事件



名古屋

山本岩雄外九名同及恐喝傷害事件(大動會員事件)……………六四六  
大動會員にして種々なる口實の下に銀行會社料亭其の他に於て暴行脅迫恐喝傷害等を爲したる事  
件

東京

二村幸雄外一名暴力行為等處罰に關する法律違反事件……………六六二  
大和民勞會員にして同會への寄附金又は同會發行雜誌の公告料として白木屋吳服店其の他に於て  
之を要求するに當り強談威迫を爲したる事件

同

中島義次郎外一名傷害事件……………六六三  
赤化防止團員にして偶々同本部隣家が動産差押に遭ふや之に立會ひたる辯護士に對し毆打し打撲  
傷を蒙らしめたる事件

同

吉武一四郎外一名同……………六六四  
赤化防止團及明德會員にして無産大衆黨を解散せしめむとして同黨本部員に對し暴行傷害を加へ  
たる事件

同

川上清一暴力行為等處罰に關する法律違反事件……………六六五  
赤化防止團員なる處雜誌實業の世界と東京朝日新聞との論争に關し同新聞編輯長の辯明を求めむ  
として拒絶せられ同家電燈笠等を損壞したる事件

大阪

榎本佐市外七名業務妨害事件……………六六六  
立憲護國黨員なる處食堂に於て放歌喧擾し器具を損壞し同食堂支配人を脅迫し華客を退散せしめ  
同食堂の營業を妨害したる事件

無政府主義に基く犯罪

昭和二年

仙臺

上田光慶外一名警察犯處罰令違反事件……………六六九  
激風社黒色青年聯盟員なる處旅館宿泊中同館主に對し雜誌廣告料又は購讀料として旅費の援助を  
要求し強談威迫したる事件

水戸

川又常夫外一名新聞紙法違反事件……………六七〇  
無政府主義を宣傳し同志を糾合し同時に新聞の購讀料及廣告料を以て之が維持資本を得むとして  
發賣禁止の新聞を配付したる事件

廣島

中村千滿與外一名同……………六七一  
無政府主義の宣傳を目的とし中國評論誌上に「政黨ノ離合集散」「俺達ノ希望」「強權ノ殿堂に親鸞  
カ君臨ノ皮肉」「自由聯合ノ話」「政治運動ト農民解放」「農民運動ノ新目標」「國家ノ本質ト其成立  
崩壞過程」「官吏諸君ニ與フ」「黒色人生觀」を題し現在の國家組織及其制度を呪詛し暴力に依る  
直接行動を煽動する事項を掲載したる事件

旭川

森川武美警察犯處罰令違反事件……………六八二  
北海道日日新聞社長に對し黒色青年聯盟員の不敬事件に關する同社員の密告並同事件の報道の責  
任を詰問し強談威迫を爲したる事件

東京

古川時雄外一名新聞紙法違反事件……………六八四  
雜誌勞働運動誌上に「代議制度ノ虚飾」と題する安寧秩序を紊亂する記事を掲載したる事件



旭川

寺澤迪雄出版法違反事件……………六八五  
北海黑色青年聯盟員にして、同聯盟員の不敬事件審理中之が釋放運動を爲さむとして無届出版を爲したる事件

静岡

大塚昇外二名恐喝事件……………六八七  
東海黑色青年聯盟員にして雜誌公告其の他の名義を以て銀行會社其他より金員を喝取したる事件

昭和三年

名古屋

伊藤長光殺人事件……………六九〇  
大同電力株式會社名古屋支店囑託を恐喝金員を交付せしめ又同志より譏謗中傷せられたりと思惟し之を殺害せむとして重傷を負はしたる事件

大阪

田中勘三郎外二名恐喝事件……………六九二  
關西黒旗聯盟員にして大阪鐵道及大阪電氣軌道各株式會社員を恐喝して金員を交付せしめたる事件

名古屋

野村利一強盜事件……………六九四  
黒色聯盟員にして短刀を擬して脅迫し金員を強取したる事件

廣島

杉田宏外二名恐喝事件……………六九五  
無政府主義にして恐喝して金員を交付せしめむとしたるも其の目的を遂げざりし事件

東京

元心昌外三名暴力行爲等處罰に關する法律違反事件……………六九六  
無政府主義を標榜勞動運動に従事日本朝鮮勞動總同盟と反目し總同盟側より壓迫せられ其勢力振はざるより之が報復を爲し其の勢力を挽回せむとして支部を襲撃して毀棄、毆打暴行を爲したる事件

大阪

中尾正義外一名同……………六九八  
關西黒旗聯盟員にして東京大阪市内の會社員に對し暴行、脅迫、恐喝をなして金員を交付せしめたる事件

浦和

後藤學三同……………七〇二  
黒色青年聯盟員にして新聞發行の援助を求むる旨申込み金員を交付せしめたる事件

大阪

篠原國雄外一名強盜事件……………七〇四  
無政府主義を信奉し阪神急行電鐵會社社員を恐喝又は脅迫し金員を交付せしめ又強取したる事件

金澤

佐々木保男暴力行爲等處罰に關する法律違反事件……………七〇六  
元黒色青年聯盟員にして金澤電氣局より申込外使用料不納の爲電氣の供給を斷つべき旨申渡されたる者あるを憤慨して同局員に對し強談威迫を爲したる事件

神戸

赤松義視恐喝事件……………七〇七  
無政府主義者にして生活費に窮したるより脅迫文を郵送して金員を交付せしめむとしたる事件



思想運動に基く犯罪

昭和二年

×札幌

寺澤迪雄新聞紙法違反事件……………

七〇九

社會民主主義系の無産政黨支部の各地に設立せらるるに飽足らず之を誹謗せむとし「民衆ヲ賣ラン  
トスル無産政黨ヲ抹殺セヨ」と題する印刷物に所定の事項を記載せざる事件

✓青森

堀江彦藏出版法違反事件……………

七一〇

鐵道従業員に對する鐵道當局及警察當局の處置を攻撃したるパンフレットを無届出版したる事件

✓秋田

平山忠尙同……………

七一一

「鐵道従業員諸君」と題し鐵道省の處置を非難したる印刷物に所定の事項を記載せる無届出版したる事件

×盛岡

横田忠夫同……………

七一二

青年訓練所生總動員に反對し其舉行前意見を岩手縣下に普く頒布せむとして「青年訓練所生總動員ニ反對セヨ」と題する印刷物に所定の事項を記載せず無届出版したる事件

鳥取

遠藤元一外一名同……………

七一三

無届にて「吊鐘」及「我々青年ノ要求」と題する印刷物を出版頒布したる事件

新潟

伊藤治一外一名新聞紙法違反事件……………

七二八

「農民」と題する新聞紙に「叫バシテクレ」と題する記事の下に革命を讚美する要旨を記述發行したる事件

×盛岡

野々村善二郎外九名暴力行為等處罰に關する法律違反事件……………

七二九

捕鮑組合が氣仙郡綾里村漁業組合より鮑漁業權の賃借を圖りたるより之れ資産階級が專業漁師を壓迫して不當なる利を壟斷するものとなし綾里專業漁師互助會を組織抗争反目中右漁業組合役員改選に際し捕鮑組合派の者及同村長に暴行又は脅迫等を爲したる事件

新潟

石附榮一出版法違反事件……………

七三三

商業學校上級生が下級生に對し暴行を爲したる事件を聞きし之を階級的差別觀念に基くものとなし學生の反省と學校當局の注意とを促さむとして此の趣旨を記載したる印刷物を無届出版したる事件

熊本

中島龍夫同……………

七三四

軍事思想の宣傳及資本家地主の爲めの戦争に反對する等の趣旨の印刷物を無届出版したる事件

岡山

倉本虎一外二名新聞紙法及治安警察法違反事件……………

七三八

發賣頒布禁止の勞働新聞を頒布し又官憲糾弾暴壓反對演說會と題する宣傳ビラ中「事務所亂入總檢束」なる語句の抹消命令ありたるに之を存置したる儘頒布したる事件

秋田

根市賢藏出版法違反事件……………

七四〇

花輪町資産家、同町長、同町會議員等の行為を非難し、同町民に對して之に關する町民大會開催方を催したる印刷物に所定の事項を記載せず且無届出版したる事件



昭和三年

松山 須山收出版法違反事件……………七四二

日本無産青年同盟愛媛支部準備會を組織し社會主義的思想宣傳に努め其の思想發表の手段として兵役に關する印刷物を無届出版したる事件

東京 神間健壽外一名傷害事件……………七五〇

建國會員が兵役期間短縮問題に付討議の爲訪問したる際之を玄關に阻止せむとして傷害を負はしめたる事件

長野 鷲美京一外二名縣令違反事件……………七五一

カール、ローザ兩名を記念する爲の不穩印刷物を電柱に貼付したる事件

神戸 崔浩俊出版法違反事件……………七五三

「諸君諸君ハ何ヲ求ムルカ云々」なる印刷物を無届出版したる事件

大阪 伊藤孝一恐喝事件……………七五四

虚無主義者の團體ギロチン社員なる處大阪電軌會社庶務係を恐喝して金十圓を交付せしめたる事件

神戸 印部綾平出版法違反事件……………七五五

全日本青年同盟の主義主張に宣傳する印刷物に所定の事項を記載せず無届出版したる事件

長野 原山猛雄同……………七五七

日本共産黨事件被告人に對する救護金募集の爲の印刷物を無届出版したる事件

金澤 金浦正同……………七五九

活動寫眞觀覽料減額運動參加方勸誘する印刷物を無届出版したる事件

岡山 橋本正義同……………七六〇

日本共産黨被告人及其の家族に對する救護金募集及救援運動を起さむとして同被告人を救護する印刷物を出版し又「戦線情報」と題し日農岡山縣聯合會名義の印刷物を無届出版したる事件

安濃津 河村俊一外一名脅迫及恐喝事件……………七六一

家賃値下及借家修繕等の交渉に際し家主を脅迫したる事件

秋田 三浦雷太郎外二名出版法及新聞紙法違反事件……………七六四

青年總動員及山東出兵反對の旨の印刷物を無届出版し及發賣頒布禁止となりたる無産者新聞を發賣したる事件

大阪 林登喜藏外二名出版法違反事件……………七六五

支那に派遣せらるる將卒に對し反軍國主義思想を宣傳せむとして之に關する印刷物に所定の事項を記載せず無届出版したる事件

名古屋 原口長治外一名出版法違反事件……………七六六

對支出兵に反對する旨の印刷物に所定の事項を記載せず無届出版したる事件



岡山	田中正夫同……………	七六九
	マルクス主義宣傳の爲の印刷物に所定の事項を記載せず無届出版したる事件	
盛岡	横田義重同……………	七七二
	家主及其他に對する警察署及裁判所の處置を非難攻撃したる印刷物を無届出版したる事件	
静岡	増田可一郎外二名同……………	七七四
	治安維持法反對宣傳印刷物に所定の事項を記載せず無届出版したる事件	
東京	島尾好平外一名新聞紙法違反事件……………	七七七
	萬朝報に皇族方に御非行ありたるが如き皇室の尊嚴を冒瀆すべき記事を掲載發行したる事件	
神戸	平山貞二同……………	七七八
	發賣頒布禁止を命ぜられたる無産者新聞を頒布したる事件	
安濃津	内田勝三外二名出版法違反事件……………	七七八
	マルキシズム研究の必要を高調し同主義研究會に参加方勸誘したる印刷物に所定の事項を記載せず無届出版を爲したる事件	
松山	久保寅吉新聞紙法違反事件……………	七八三
	發賣頒布禁止を命ぜられたる無産者新聞を發賣頒布したる事件	

東京	相根豊治郎請願令違反事件(赤坂離宮前直訴事件)……………	七八三
	赤坂離宮前に於て治安維持法改正緊急勅令に關し直訴せむとしたる事件	
札幌	五十嵐久彌出版法違反事件……………	七八五
	安全週刊宣傳に反對する旨の印刷物を無届出版したる事件	
東京	關根悅郎新聞紙法違反事件(無産者新聞事件)……………	七八九
	無産者新聞に日本共産黨事件及其他に關する安寧秩序を紊る論説を掲載したる事件	
神戸	品川仁三郎同……………	七九八
	日華新報に「革命勵志會宣言臺灣國家主義者新聲」と題する安寧秩序を紊る事項を掲載發行したる事件	
廣島	井上裕出版法違反事件……………	八〇一
	新無産青年同盟準備會廣島支部準備會の名を以て「名譽ノ凱旋兵士諸君ニ呈ス」と題する印刷物を無届にて支那歸還兵士に頒布したる事件	
大阪	大浦梅夫出版法違反事件……………	八〇二
	日本共産黨事件被告人を救援する目的の下に犠牲者救援會を設立せむとして「我等ノ指導者ヲ取り返せ！犠牲者救援會ニ加入シヨ」と題する刷印物を無届出版したる事件	
名古屋	中村きみ同……………	八〇四
	解放運動犠牲者救援會報に「創立ニ就イテ」及「救援會ヲ支持セヨ」の各題下に日本共産黨事件被告個人を救護する印刷物を無届出版したる事件	



東京

宋在洪新聞紙法違反事件……………

在日本朝鮮青年同盟機關紙「青年朝鮮」に「朝鮮増兵警察増置ハ決死的反對ダ」及「二千三百万民衆ノ恥辱ノ日八月二十九日ノ迫到、全民族的共同闘争ヲ展開シヨウ」各題する安寧秩序を紊す事項を掲載したる事件……………

水戸

須毛原貞正外一名警察犯處罰令違反事件……………

新無産青年同盟準備會促進運動の爲「國際無産青年デー」と題する宣傳ビラを濫に電柱に貼付したる事件……………

福岡

北口榮外一名出版法違反事件……………

主義宣傳の爲支那出兵に反對する旨及水道料金値下運動を爲す旨の印刷物に所定の事項を記載せず無届出版を爲したる事件……………

大阪

金秉國同……………

朝鮮民族の解放運動及此の運動に對する官憲暴壓に關する印刷物を無届出版したる事件……………

青森

大澤喜代一同……………

弘前電燈會社及弘前警察署を攻撃し市民は弘電値下期成同盟に加入すべき旨無届出版したる事件……………

岡山

木村勝次同……………

全日本無産者藝術聯盟「戦旗」支部を創立せむとして「綱領」戦旗岡山支部組織確立ニ當リ左ノ如ク叫ブ」及「戦旗擴大支部創立大會ニ當ツテ左ノ如ク叫ブ」と各題する印刷物を無届出版したる事件……………

神戸

榊本實外一名新聞紙法違反事件……………

神戸無産新聞支局ニユースなる題號の新聞紙第一號及第二號を無届發行したる事件……………

松山

小崎英夫外一名住居侵入及出版法違反事件……………

松山染織會社染色工場、精練工場に侵入し「職場大會ヲ開ケ、今スグストライキダ」と題する文書を撒布し、無届にて「兵役ヲ一年ニシロ」及「簡閱點呼ニ絶對反對ダ」と各題する印刷物を出版したる事件……………

東京

大島英二郎請願令違反事件(日比谷公園角直訴事件)……………

東京府立第一中學校前に於て政府の施政を非難其他の事項を認めたる文書を以て直訴せむとしたる事件……………

青森

大澤喜代一外一名警察犯處罰令違反事件……………

元労働農民黨執行委員長を見送の歸途プラットホームに於て労働歌を高唱し喧噪したる事件……………

福岡

落合久生新聞紙法違反事件……………

地方に於ける無産大衆黨の活動状況を報導する爲無届にて無産大衆新聞京築版及北九州版と題する新聞紙を發賣頒布したる事件……………

秋田

仁平三郎外一名警察犯處罰令違反事件……………

「労働者農民國ロシヤヲ守レ」と題するポスターの郵送を受けたるより之を宣傳せむとして他人の土塀其他に濫に貼付したる事件……………

京都

李恩龜請願令違反事件(京都市直訴事件)……………

朝鮮人が社會的政治的に差別待遇を受くるものと爲し京都市下京區烏丸通上珠數屋町に於て之を直訴せむとしたる事件……………



水戸 小澤雄次郎警察犯處罰令違反事件……………八三一  
無産者新聞講讀者なる日立製作所職工が解雇せられたるより同新聞の販路擴張と主義宣傳との爲  
同職工の復職を交渉せむとして面會強請を爲したる事件

其の他

昭和二年

松江 石場敏治墓所不敬事件……………八三三  
小作地を返還せざるべからざるに至りたるより之が報復手段として地主所有の墓石等を押倒した  
る事件

長野 横内和一郎同……………八三三  
自己の墓地内に建立したる石碑なりと過信し之を押倒したる事件

同 竹内庄一郎葬式妨害事件……………八三四  
従弟の息の遺骨埋葬の通知を受けざりしを立腹して墓地内に掘れる穴を埋め後更に同所に立入り  
要求せられて退去せざりし事件

岡山 猪木嘉一郎神祠不敬事件……………八三六  
能勢妙見大菩薩の盲信に因る偏見と部落民に對する反感とより祈禱中の戸島神社に於て備付の器  
具及供物を損壞したる事件

宇都宮 笹崎寛禮拜妨害事件……………八三七  
建碑世話人を除名せられたるより其の式場列席員の帽子を奪ひ取り禮拜を妨害したる事件

盛岡 菅原清治禮拜所不敬事件……………八三八  
耕作中の畑地を墓碑建設の爲荒らされたるより同墓碑を押倒したる事件

長野 市川嘉作神祠不敬事件……………八三九  
性來の臆病より醉餘度胸鍛練の爲となし夜稻荷神社に於て鳥居、燈籠を轉倒したる事件

岡山 畑部直次郎同……………八三九  
金銭貸借に付き生じたる抗争に勝を得む爲祈禱を爲したるも其驗なかりしより相手方に神罰を蒙  
らしめむとして同人の人糞を以て木山寺境内に在る神社を穢したる事件

安濃津 館米藏禮拜所不敬事件……………八四〇  
妻が天理教を信じ家業を勵まざるより之を止めむとして他人の禮拜中の天理教神祠三舎を投付け  
たる事件

松江 長田菊次郎同……………八四一  
醉餘偶發的に石造地藏尊を押倒したる事件



同

中村岩市同

醉餘巖倉寺境内地藏尊に對する一般禮拜者淨垢用の手洗鉢を地に覆したる事件

六四二

昭和三年

前橋

藤村慶次郎禮拜所不敬事件

圓滿寺境内墓地の塔婆を取去りたる事件

八四二

富山

朝日林之助説教妨害事件

醉興に乗じ貸座敷に於ける僧侶の説教を中止せしめたる事件

八四三

松山

秋山輝繁墓所不敬事件

櫻花見物際にし醉餘彈絃、放歌を爲したる寺男より叱責せられたるより境内墓所石碑を突倒したる事件

八四四

山口

大場繁吉外二名同

醉餘の結果共同墓地にある墓石を押倒したる事件

八四五

東京

根岸順一郎請願令違反事件(東京小石川音羽町直訴事件)

東京市小石川區音羽町に於て大橋液を國家の専有たらしめむとし且之を直訴せんとしたる事件

八四六

同

鳴島音松離宮侵入事件(赤坂離宮侵入事件)

京濱運河築設に附帶し東京灣京濱沿岸の淺海埋築許可あるときは同沿岸漁民が其の業を失ふに至るを慮れ之が許可なき様直訴せむとして赤坂離宮に侵入したる事件

八四八

神戸

西村順造外一名禮拜所不敬事件

墓石を破壊したる事件

八四九

名古屋

朴仁秀葬式妨害事件

朝鮮人雇人の葬儀を朝鮮風に執行すべき旨申込みたるも之を拒絶せられたるより雇主に對し暴行し葬式の妨害を爲したる事件

八四九

前橋

森彦市外一名禮拜所不敬事件

墓地内の墓石及水鉢を持去り又は取去りたる事件

八五〇

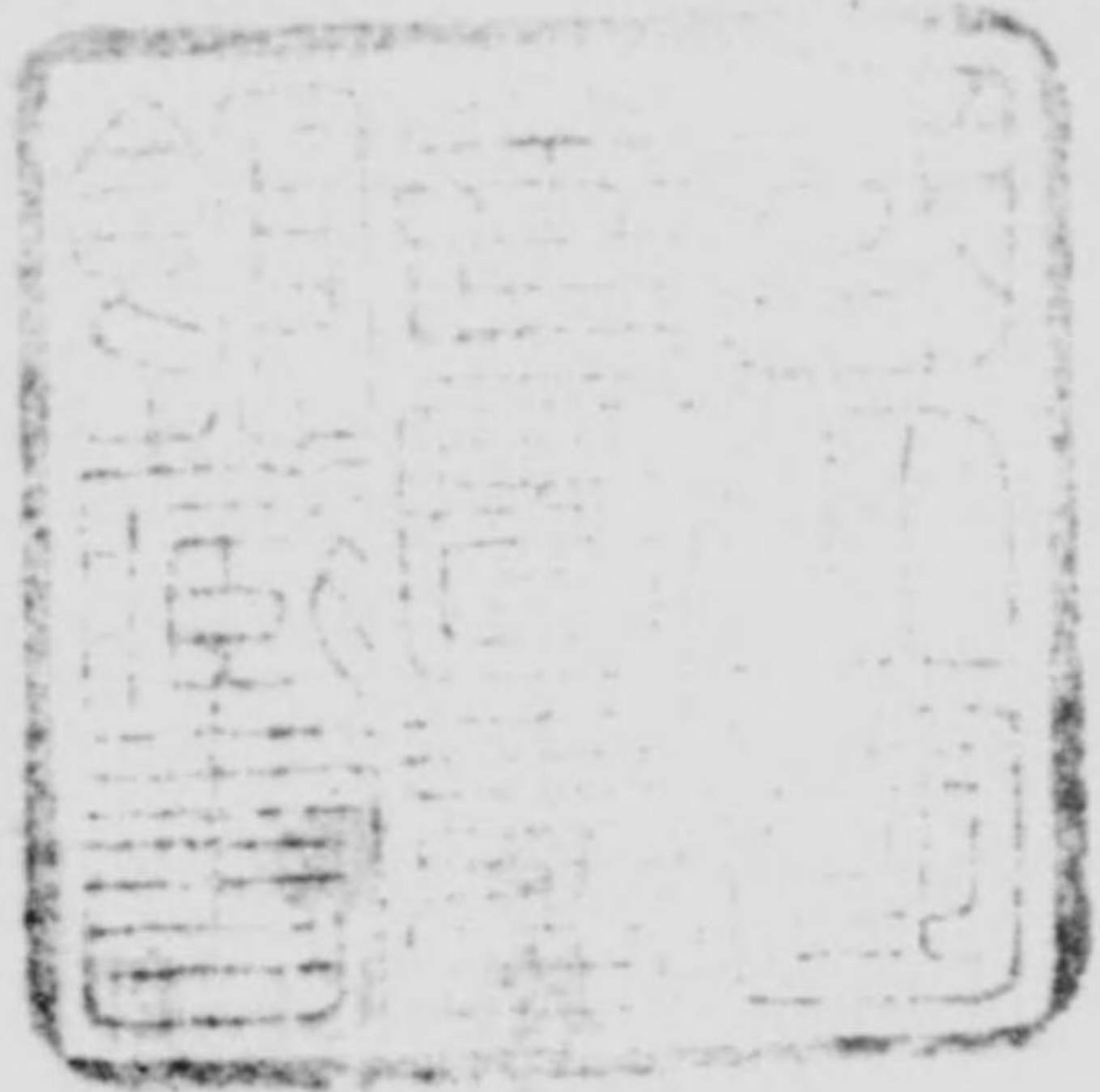
東京

茂木政吉請願令違反事件(貴族院前直訴事件)

貴族院門前に於て埼玉縣大寄村唐澤堀放水路計畫撤廢に關し直願せむとしたる事件

八五一





昭和二年  
昭和三年  
に於ける思想犯罪の概況

昭和二年及昭和三年の兩年間に發生したる思想犯罪事件にして注目し得るものは、日本共産黨事件を初めとして集産黨事件、朝鮮共産黨事件等史上空前の大事件の簇出である。此等の事件が全社會思想に甚大な波紋を生ぜしめたばかりでなく、更に各般の社會運動の指導精神乃至は實行運動に劃期的影響を齎したことは疑ふことの出来ない事實である。夫れ故先づ此等の事件の實相を檢討究明し之を透して思想的傾向を推知せむとすることは確かに緊要事たるを失はぬのであるが、右事件中には未だ審理調査の盡さざるものもある關係上姑く之か精査を後日に俟つこととした。

仍ち本調査の對象と爲したるものは、昭和四年二月末日迄に起訴したる右兩年間に發生したる自餘の思想犯罪事件を労働爭議、小作爭議、労働運動、農民運動、政治運動、水平運動、反動運動、無政府主義運動及思想運動に基く各犯罪竝に其の他の十







に於ては其の全事件に對し件數に於て三割六分、人員數に於て四割六分に當つて居る。斯く昭和二年に於て勞働爭議及小作爭議に基く犯罪事件が多數で有つたのは勞働爭議に基くものとして

四

- 磐城炭坑勞働爭議に基くもの 六件 六〇人
- 入山炭坑勞働爭議に基くもの 九件 四六人
- 野田醬油會社勞働爭議に基くもの 二一件 四九人(但昭和三年に於ける一二件五〇人を除く)
- 鳥取縣淀江町 渡邊美濃外三十一名騷擾事件
- 香川縣土器村 上村佐五郎外二十三名騷擾事件
- 兵庫縣神戸 清水米四郎外二十一名騷擾事件
- 大阪府甲可村 八上庄太郎外二十六名騷擾事件
- 岡山縣北川村 皿井弘外十九名脅迫等事件
- 岐阜縣一色村 高崎政一外十一名暴力行爲事件
- 岡山縣藤田組兒島農場 難波重平外二十六名窃盜事件

等合計七件一六四人を擧げることが出来るのであるが、翻つて、昭和二年、三年の勞働爭議及小作爭議の發生件數及其の參加人員數を觀るに左表の通り(各年の翌日現在社會局調)昭和二年に於ては昭和三年に於けるよりも勞働、小作爭議件數が多い。

年 度	種 別	件 數	參 加 人 員 數
昭 和 二 年	勞 働 爭 議	一、〇二二	八〇、四八九
	小 作 爭 議	一、三〇〇	一六、二六三
昭 和 三 年	勞 働 爭 議	七五二	六二、九二五
	小 作 爭 議	一、〇一六	八〇、八六六
			地 主 一、二、〇〇六
			小 作 人 四三、八五九

之に依つて觀れば、此等の爭議を基因とする犯罪が其の爭議發生數の多寡に正比して増減することは勿論と思はれるのであるが、爭議參加人員及爭議繼續日數の多少等、或は爭議を指導煽動する各種團體の思想的傾向及背影團體の有無等に起因するものと思はれる。

上述の如く昭和三年に於ては勞働爭議及小作爭議に基因する犯罪事件が激



減して居るのであるが、一方に於て政治運動及思想運動に基く犯罪は著しく増加して居るのであつて、同年に於ける政治運動に基く犯罪の内容の主なるものを見ると、衆議院議員總選舉施行に際し其の選舉運動に當り無產政黨の宣傳文書印刷頒布及演說會開催等に起因したるもの、選舉費用及政黨費用捻出に起因したるもの及労働農民黨外二團體の解散命令及治安維持法改正の反對運動並に新黨組織準備會の宣傳運動に起因したるもの等であつて此等が其の増加が主要なる原因となつて居るのである。次に思想運動に基く犯罪の内容を見ると、全日本無產青年同盟の宣傳運動及日本共產黨事件被告人の救援運動並に無產者新聞販路擴張運動等が主なるものであつて此等が其の増加の主因を爲して居るのである。

昭和二年及昭和三年の思想犯罪事件一件に付ての人員數を見ると、左表の如く昭和二年に於ては四人四分強、昭和三年に於ては二人三分弱である。

年 度	事 件 一 件 當 り 人 員 數			
	全思想犯罪	労働争議 基ク犯罪	小作争議 基ク犯罪	労働争議 基ク犯罪
昭和二年	四・四分強 <sup>人分</sup>	五・四分強 <sup>人分</sup>	六・四分弱 <sup>人分</sup>	五・九分弱 <sup>人分</sup>
昭和三年	二・三分弱	三・二分弱	二・六分強	二・九分弱

而して労働争議及小作争議に基く犯罪に付て見ると、昭和二年に於ては五人九分弱、昭和三年に於ては二人九分弱であつて、此等の犯罪を除いた自餘の思想犯罪の一件當りの人員數は昭和二年は二人一分弱、昭和三年は一人九分弱である。之を自大正十二年至昭和二年五ヶ年間の刑事起訴總事件の一件に對する人員數一人七分弱に對比するに思想犯罪殊に争議に基く犯罪が一般犯罪よりも共同的に敢行せられて居ることを看取し得るのである。

### 第二 犯罪の態様

昭和二年及昭和三年の思想犯罪人員數より無罪、免訴及公訴棄却等の確定裁判ありたる者八〇人及未確者の者一七六人を除きたる確定有罪人に付罪名別



に計上すれば別表(附表第一號)の通りであるが、其の内主なるものを摘示すれば左表の通りである。

罪名	昭和二年		昭和三年		計	
	人員數	百分率	人員數	百分率	人員數	百分率
公務執行妨害	三四	四%	五	一%	三九	四%
騒擾	一九四	二四%	一〇	三%	二〇四	一八%
傷害	一三〇	一六%	六四	二〇%	一九四	一八%
脅迫	三六	五%	四	一%	四〇	四%
恐喝	二六	三%	九	三%	三五	三%
計	四二〇	五二%	九二	二八%	五一二	四七%
其ノ他刑法犯	五八	八%	四〇	一四%	九八	八%
合 計	四七八	六〇%	一三二	四二%	六一〇	五五%
暴力行爲等處罰ニ關スル法律	二一九	二八%	五九	一九%	二七八	二五%
新聞紙法及出版法	四八	六%	七六	二五%	一二四	一一%

治安警察法 警察犯處罰令	昭和二年		昭和三年		計	
	人員數	百分率	人員數	百分率	人員數	百分率
計	二二	三%	九	三%	二三	三%
其ノ他ノ特別法犯	一五	二%	二六	八%	四一	四%
合 計	三〇五	三九%	一七〇	五五%	四七二	四三%
總 計	七九三	一〇〇%	三一一	一〇〇%	一、一〇四	一〇〇%

即ち、刑法犯罪と特別法犯罪との比は昭和二年は六〇と四〇、昭和三年は四二と五八であつて、昭和三年に於て刑法犯罪の減少は騒擾が尠少であつたことに、又特別法犯罪の増加は新聞紙法及出版法の罪が多數であつたことに因るのである。而して兩年の合算數に付て觀ると暴力行爲等處罰に關する法律違反の罪が實に全數の二割五分を占め騒擾及傷害竝に新聞紙法及出版違反等の罪が順次に之に次いで居る。

次に刑法犯罪人に付法益別に計上すれば

思想犯罪の概況



法 益 別	昭 和 二 年		昭 和 三 年		計	
	人員數	百分率	人員數	百分率	人員數	百分率
國家及公ノ秩序ニ對スル罪	二四七	五・一%	四〇	二・九%	二八七	四・六%
人ニ對スル罪	一七一	三・六%	七三	五・五%	二四四	四・〇%
財産ニ對スル罪	六〇	一・三%	一九	一・六%	七九	一・四%
計	四七八	一〇・〇%	一三二	一〇・〇%	六一〇	一〇・〇%

であつて、昭和二年に於ては國家及公の秩序に對する罪が五割一分を占め、人に對する罪、財産に對する罪之に次ぎ、昭和三年に於ては人に對する罪が五割五分の首位に在り、之に次ぐは國家及公の秩序に對する罪、財産に對する罪である。之は昭和二年に於ては騷擾罪が多數であり、昭和三年に於ては傷害罪が多數で有つた事に原因するのである。

叙上の諸點に付參考の爲一般犯罪に比較對照して觀ると、昭和二年及昭和三年の思想犯罪の確定有罪人の刑法犯罪と特別法犯罪との合算比は五五と四五

であるが自大正十二年至昭和二年五年間の一般犯罪確定有罪人の合算比は六七と三三である。即ち、思想犯罪には特別法犯が比較的多いことを表はして居る。又右五年間の一般刑法犯確定有罪人の罪名別を一瞥すると賭博罪が首位に在り、之に次ぐは窃盜、傷害、詐欺等の罪であるが、公務執行妨害、騷擾、傷害、脅迫及恐喝罪に付思想犯罪と比較すると左の通りである。

罪 名	自大正十二年至昭和二年 刑法犯確定有罪人總數ニ 對スル百分率		昭和二年及昭和三年 思想犯罪刑法犯確定有罪 人總數ニ對スル百分率	
	人員數	百分率	人員數	百分率
公務執行妨害	〇・二%	六・〇%	〇・二%	六・〇%
騷 擾	〇・五%	三三・〇%	〇・五%	三三・〇%
傷 害	八・〇%	三二・〇%	八・〇%	三二・〇%
脅 迫	〇・四%	六・〇%	〇・四%	六・〇%
恐 喝	〇・七%	六・〇%	〇・七%	六・〇%
計	九・八%	八三・〇%	九・八%	八三・〇%

即ち此等の犯罪に於て一般刑法犯罪が僅か其の總數に對し九分八厘に當つ



て居るのに對し、思想犯罪に於ては實に八割三分に當つて居るのである。次に之を法益別に表出すれば

法益別	自大正十二年至昭和二年 刑法犯確定有罪人ニ對スル百分率	昭和二年及昭和三年 思想犯罪刑法犯確定有罪人ニ對スル百分率
國家及公ノ秩序ニ對スル罪	六七%	四六%
人ニ對スル罪	一三%	四〇%
財産ニ對スル罪	二〇%	一四%
計	一〇〇%	一〇〇%

であつて、思想犯罪には財産に對する罪が少く、人に對する罪が比較的多いことを示して居る。又國家及公の秩序に對する罪に於て一般刑法犯が六割七分に當り、思想犯罪が四割六分に過ぎないのは一般刑法犯に於ては賭博罪が全數の五割八分を占めて居るからである。

労働爭議及小作爭議に基く犯罪に付いて觀察すると其の昭和二年及昭和三年の合計罪名別表は左の通りである。

罪名	労働爭議ニ基ク犯罪確定有罪人員數	小作爭議ニ基ク犯罪確定有罪人員數	計		同罪名思想犯罪確定有罪人全數ニ對スル比率
			人員數	百分率	
公務執行妨害	一四	二三	三七	四・八%	九五%
騷擾	九一	一一三	二〇四	二六・六%	一〇〇%
傷害	一一六	四七	一六三	二一・三%	八四%
脅迫	九	二四	三三	四・三%	八三%
恐喝	一	六	六	〇・八%	一七%
計	二三〇	二一三	四四三	五七・八%	八七%
其ノ他ノ刑法犯	一七	四三	六〇	七・八%	六一%
合 計	二四七	二五六	五〇三	六五・六%	八二%
暴力行為等處罰ニ關スル法律	九四	一一三	二一七	二八・二%	七八%
新聞紙法及出版法	一〇	二	一二	一・五%	一〇%
治安警察法	一一	五	一六	二・一%	五〇%
警察犯處罰令	七	二	九	一・三%	二二%
計	一二二	一三二	二五四	三三・一%	五三%

思想犯罪の概況



其ノ他ノ特別法犯	一〇	一	一〇	一・三%	五三%
合 計	一三二	一三二	二六四	三四・四%	五三%
線 計	三七九	三八八	七六七	一〇〇・〇%	六九%

労働争議及小作争議に基く犯罪の刑法犯と特別法犯との比は六五・六と三四・四であつて比較的刑法が多いのであるけれども、暴力行爲等處罰に關する法律違反の罪は此の争議犯罪の二割八分強で首位を占め、之に次ぐは騷擾、傷害及公務執行妨害等の罪である。又此等争議に基く確定有罪犯人は思想犯罪總人員數に對し六割九分を占めて居るのであるが、刑法犯のみでは其の全數の八割二分に當り、騷擾罪は十割、公務執行妨害罪は九割五分特別法犯は其の全數の五割三分、暴力行爲等處罰に關する法律違反の罪は其の七割八分を占めて居るのである。

次に此の争議に基く刑法犯人に付法益別に擧げると

法 益 別	労働争議ニ基ク犯罪		小作争議ニ基ク犯罪		計	
	確定有罪人員數	百分率	確定有罪人員數	百分率	確定有罪人員數	百分率
國家及公ノ秩序ニ對スル罪	一一三	四六%	一四六	五七%	二五九	五二%
人ニ對スル罪	一二八	五二%	七五	二九%	二〇三	四〇%
財産ニ對スル罪	六	二%	三五	一四%	四一	八%
計	二四七	一〇〇%	二五六	一〇〇%	五〇三	一〇〇%

となる。即ち、人に對する罪は昭和二年及昭和三年全思想犯罪と同率であるが國家及公の秩序に對する罪は高率を示し、財産に對する罪は著しい低率を示して居るのである。労働及小作争議の關係團體と其の犯罪人との關係を觀るに労働争議に基く犯罪に於ては



關係労働團體系統別	昭和二年		昭和三年		計	
	件数	人員数	件数	人員数	件数	人員数
日本労働總同盟	一八	五四	一一	二二	二九	七六
日本労働組合同盟	一五	一〇〇	一	一	一五	一〇〇
日本労働組合評議會	八	二五	一	九	一三	三四
日本労働組合總聯合會	一	四三	一	六	二	四九
全國労働組合自由聯合會	一	五	一	二	二	七
日本交通労働總聯盟	一	三	一	一	二	三
日本俸給生活者組合聯盟	一	二	一	一	二	三
大阪労働組合聯盟	一	四	一	一	二	四
其ノ他地方單獨労働組合	二	二六	一	四	三	三〇
不詳	一〇	一五	一	四	一一	二九
計	五八	二八七	二七	五七	八五	三四四

であつて、日本労働總同盟系及日本労働組合同盟系の多數なるは夫々野田醬油會社争議及磐城炭坑竝に入山炭坑の各争議に基く。因に雇主側の犯罪は昭和

二年一〇件三三人、昭和三年二件である。小作争議に基く犯罪に於ては

關係農民組合別	昭和二年		昭和三年		計	
	件数	人員数	件数	人員数	件数	人員数
全國農民組合	一	一	三	三	三	三
日本農民組合	三五	二〇六	五	一七	四〇	二二三
全日本農民組合	六	六九	一	一	六	六九
中部農民組合	一	三	一	一	二	三
大和農民組合	一	一	一	一	二	一五
其ノ他ノ地方農民組合	二	三一	四	一四	六	四二
不詳	一一	一一	四	一八	一五	三〇
計	五七	三三二	二七	六三	八四	三八五

となつて居つて日本農民組合の關係せるものが最も多い。因に地主側の犯罪は昭和二年一件一人、昭和三年二件二人であるが昭和三年兵庫縣に於ける農民



組合幹部の家族五名に對する殺傷事件は注目すべきものである。労働爭議及之に基く犯罪事件の業態別件数を擧ぐれば左の通りである。

業態別	昭和二年		昭和三年	
	労働爭議件数	同犯罪件数	労働爭議件数	同犯罪件数
機械器具製造工業	一九八	六	一五三	二
化學工業	一七八	四	一〇七	一
染織工業	一八二	五	一三一	一
飲食物製造工業	三三三	二二	二八	一三
雜工業	一八二	七	一三九	五
鑛業	二七	一	一五	二
瓦斯、電氣事業	三	一	三	二
運輸業	二六	四	八	一
土木建築業	四一	一	三一	三
通信業	三七	二	五一	二
其他業	五	一	〇	一
計	一、〇二二	六八	七五二	二九

又小作爭議に基く犯罪は左表の如く其の大部分が地主側の合法的手段を遠因として、小作人側は之が對抗手段として犯行に出て居るのであつて、其の他の犯罪は昭和二年十件、昭和三年八件に過ぎないのである。

犯罪ニ至ル迄ノ地主ノ手段別	昭和二年		昭和三年	
	件数	件数	件数	計
小作料ノ支拂請求	九	八	一七	
小作地ノ返還請求	〇	四	一四	
作米及其ノ他ノ動産差押執行	〇	一	一	
小作地占有移轉ノ假處分執行	六	二	八	
小作地立入禁止假處分執行	〇	六	一六	
作米換價競賣執行	三	一	三	
計	四八	二一	六九	

即ち、右地主の手段中強制執行に訴へ爲めに犯罪を誘致したるもの過半数に達し、其の内に於ても小作地立入禁止假處分の執行は其の人員數合計一〇七人を算し首位に在るのである。



第三年 年齢

昭和二年及昭和三年の有罪確定人員数を年齢別に擧ぐれば

年齢別	昭和二年		昭和三年	
	人員数	百分比	人員数	百分比
少年 二〇以下	四七	六%	二五	八%
青年 二〇以上 二五以下	三五三	四五%	一七一	五四%
壯年 二五以上 三〇以下	二三六	二九%	七一	二三%
老年 三〇以上	一〇四	一三%	三〇	一〇%
計	七九三	一〇〇%	三一一	一〇〇%

であつて兩年共青年者が略半数を占めて居るのであるが、其の平均年齢は昭和二年三二歳強、昭和三年三〇歳弱となつて居る。尙之を思想犯罪の原因別に人員数を示せば別表附第二號の通であるが、其の各平均年齢を摘記すると左の通りである。

年 度	労働争議 = 基 犯	小作争議 = 基 犯	労働運動 = 基 犯	農民運動 = 基 犯	政治運動 = 基 犯	水平運動 = 基 犯	反動運動 = 基 犯	無政府主義 運動 = 基 犯	思想運動 = 基 犯	其ノ他	平均
昭和二年	二九強	三六弱	三四弱	三四強	三二強	三四弱	三〇弱	二四弱	三一弱	三八強	三二強
昭和三年	二六強	三九弱	二九強	三〇強	二八弱	二六強	二六強	二五強	二六弱	三八強	三〇弱

更に之を罪名との關係に付て見れば別表(附第三號)の如くであるが、其の内主要なるものみに付て便宜上兩年を合算計上すると

罪名	少年		青年		壯年		老年		計				
	人員数	百分比	人員数	百分比	人員数	百分比	人員数	百分比					
公務執行妨害	二〇以下	二	二一以上 二五以下	二	二六以上 三〇以下	八	三一以上 四〇以下	一五	四一以上 五〇以下	四	五一以上	四	三五

思想犯罪の概況







之を自大正十二年至昭和二年五ヶ年間の第一審刑法犯有罪犯人の年齢別平均比率に比較すれば

種別	自大正十二年 至昭和二年		第一審刑法犯有罪犯人 ノ年齢別平均百分比	
	刑法犯有罪犯人百分比	特別法犯有罪犯人百分比	刑法犯有罪犯人百分比	特別法犯有罪犯人百分比
少年	二〇以下	三%	六%	七%
青年	二一以上 二五以下	一四%	二六%	二八%
	二六以上 三〇以下	一九%	二二%	二二%
壯年	三一以上 四〇以下	三二%	二八%	二六%
	四一以上 五〇以下	二〇%	一〇%	一二%
老年	五一以上	一二%	六%	七%
計			六%	七%

であつて、第一審有罪刑法犯人も亦青年者が三割三分の首位を占め壯年、老年、少年者が之に次ぎ、就中青年中でも二六歳以上三〇歳以下の者が多数を示して居るのに對し、思想犯罪刑法犯に於ては、青年は四割五分を占め其の他の者が同様の順位を以て之に次いで居るのであるけれども、彼よりも壯年、老年は減率を示し、少年者は倍増の比率を示して居る。而して思想犯罪特別法犯に付

て之を觀れば、此の傾向が一層顯著に現出して居るのである。

昭和二年に於ける平均年齢は三二歳強、昭和三年は三〇歳弱であることは前述の通りであるが、之より遙かに老齡なるは其の他の犯罪及小作爭議に基づく犯罪であつて、若齡なるは無政府主義運動に基づく犯罪である。其の他の犯罪は其の大部分が墓所等に關する犯罪で而かも思想上の深き根底があるのではなく單純な偶發的動機に起因するものと思惟される。

次に小作爭議に基づく犯罪に老齡者が多いことは別表(附第二號)の通りであつて、之れは爭議の母體たる農民組合の加入者が多く農家の家長で有る事に起因するものと思はれる。今、此の犯人中五一歳以上の者の年齢を更に細別(但昭和二年及同三年合算)すると

年齢別	人員數	計
五五	一八	三七
二一	八	
五五	六	
四三	四	
五五	一	
六五	六	
五五	一	
八七	一	
六五	一	
〇九	一	
六六	六	一〇
二一	一	四七
六六	一	
四三	二	
六六	一	
六五	一	
六七	一	
計		



であつて、此の全數四七人中労働争議に基く犯人は僅か二人に過ぎないのである。而して小作争議に基く此等老年犯人は放火及脅迫各一人の單獨犯を除く外凡て共同犯行であることも注目すべきである。無政府主義運動に基く犯罪は別表(附第二號)の通り三五歳以下の者のみによつて爲されて居る關係上比較的其の平均年齢が若くなつて居る。之は自大正十年至昭和三年八ケ年間の不敬犯罪に現はれた無政府主義者の平均年齢二六歳に略近い。

### 第四 職業

昭和二年及昭和三年の確定有罪犯人に付職業別に掲上すれば

職業別	昭和二年		昭和三年		計	
	人員數	百分率	人員數	百分率	人員數	百分率
農業、水産業	三七二	四七%	九三	三〇%	四六五	四二%
鑛業、工業	二二四	二七%	三三	一一%	二四七	二二%
商業、交通業	二九	四%	三一	一〇%	六一	五%

職業別	昭和二年		昭和三年		計	
	人員數	百分率	人員數	百分率	人員數	百分率
公務、自由業	四六	六%	五〇	一六%	九六	九%
僕婢日傭其他	八八	一一%	四五	一五%	一三三	一二%
無職業	四四	五%	五九	一九%	一〇三	一〇%
計	七九三	一〇〇%	三一一	一〇〇%	一、一〇四	一〇〇%

であつて、農業、水産業、鑛業、工業の多數なるは小作争議及労働争議に基く犯罪人が之れに屬するからである。尙、無職業者を見れば昭和二年に於て五分に過ぎなかつたのが昭和三年に於ては一割八分に激増して居る點と、反動運動、無政府主義運動及思想運動に基く各犯罪人に比較的多く無職業者の存することは注目すべきであると考えへる。

尙、比較的上大正十二年至昭和二年五年間の第一審有罪刑法犯人の職業別合算比を掲ぐるに

職業別	百分率
農業、水産業	二〇%



無職業	一〇〇%
無職業	一五%
無職業	一〇%
公務、自由業	二%
商業、交通業	二九%
工業、商業	二四%

であつて首位は商業、交通業、尾位は公務、自由業であるが、無職業は一割五分を占めて思想犯罪人に於ける兩年合算比一割よりも多い。

第五 犯罪の時

昭和二年及昭和三年の有罪確定事件の發生時季に付て其の件數と人員數とを舉示すれば左の通りである。

季節別	昭和二年				昭和三年				計			
	件數	百分率	人員數	百分率	件數	百分率	人員數	百分率	件數	百分率	人員數	百分率
春 自三月 至五月	五九	二九%	一八六	二三%	四九	三〇%	九〇	二九%	一〇八	三〇%	二七六	二五%
夏 自六月 至八月	四三	二一%	二七一	三四%	五五	三三%	一一七	三八%	九八	二六%	三八八	三五%
秋 自九月 至十一月	四七	二三%	一〇二	一三%	二七	一六%	四二	一三%	七四	二〇%	一四四	一三%
冬 自十二月 至二月	五三	二七%	二三四	三〇%	三六	二一%	六二	二〇%	八九	二四%	二九六	二七%
計	二〇二	一〇〇%	七九三	一〇〇%	一六七	一〇〇%	三一一	一〇〇%	三六九	一〇〇%	一、一〇四	一〇〇%

今、便宜上右兩年の合計を件數に就て見ると春季が最も多く之に次ぐに夏、冬、秋季の順となつて居る。人員數に於ては夏が最も多く冬、春、秋季が之に相次いで居る。即ち、秋季が件數に於ても亦人員數に於ても共に最少で夏季は件數に對比して人員數が多數である。換言すれば夏季に於ては共同犯が多いことになるのである。

因に自大正十二年至昭和二年五年間の第一審刑法犯有罪犯人に付犯罪發生季節の百分率は

- 春 二五%
- 夏 二一%

思想犯罪の概況







及むで居るのであつて、同年下半期に於て事件数の減少して居るのは本調査が昭和四年二月末日現在有罪確定に依つたことに原因するものと思はれるのである。今、参考の爲社會局調各翌年一月十五日現在労働爭議の月別發生件数を掲ぐれば左の通りである。

年 度	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
昭和二年	九五	七五	一〇七	一〇七	一〇三	七五	六〇	一〇八	七六	七八	六八	五三
昭和三年	五九	三八	五三	七六	七四	六九	六八	九八	七七	四一	三六	六二

依之觀是、労働爭議と之に基く犯罪は時季に格別の關係を有つものではなく、犯罪事件數に付前記の如き計數を得たのは大爭議の勃發が主要原因を爲して居るのである。

小作爭議に基く犯罪事件數に付發生月別表は左記の通りで

年 度	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
昭和二年	四	四	三	七	八	一一	三	一	二	三	八	五	五八

昭 和 三 年	計
三	七
二	六
四	七
四	一一
二	一〇
九	二〇
一	四
一	一
二	四
二	五
一	八
一	五
二九	八七

孰れも上半期に事件發生數が多いのは、之れが小作料納入期、係争地の耕作開始期に該當するからである。

因に社會局調各翌年一月十五日現在社會局調小作爭議の月別發生件数を掲ぐれば、左表の通りである。

年 度	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
昭和二年	三三八	一三五	八四	六九	四二	四四	一一	六	一六	五六	一六七	二三〇
昭和三年	一一六	四八	九一	五〇	四一	二六	二四	二四	三〇	六二	八九	二三八

### 第六 犯罪の場所

昭和二年及昭和三年の有罪確定事件數及其の人員數を犯罪の場所に付市街と村落とに區別計上すれば、左の通りである。(右側は昭和二年、左側は昭和三年)

思想犯罪の概況



犯罪別	市		街		村		落	
	件数	百分率計	件数	百分率計	件数	百分率計	件数	百分率計
労働争議ニ基ク犯罪	一八	二八%	一一六	三五%	二五〇	七二%	二〇四	六五%
小作争議ニ基ク犯罪	一		一		一〇〇	一〇〇%	三三	一〇〇%
労働運動ニ基ク犯罪	三六	四五%	六四	二七%	六五	六五%	九八	七三%
農民運動ニ基ク犯罪	三	八%	三	五%	一三	九二%	一四	九五%
政治運動ニ基ク犯罪	二五	二八%	八	二三%	四四	七二%	三二	七七%
水平運動ニ基ク犯罪	一	二七%	一	九%	四	七三%	一	九一%
反動運動ニ基ク犯罪	四	七八%	一六	七一%	一一	二二%	一七	二九%
無政府主義運動ニ基ク犯罪	七	七五%	四九	七四%	二二	二五%	四四	二六%
思想運動ニ基ク犯罪	七	七七%	九	七一%	一〇	二三%	一三	二九%
其他	五	二六%	八	三五%	三	七四%	四	六五%
計	七四〇	四二〇%	一四九八	三一九%	一六七二	五八〇%	一六五四	六三一%

右表に依れば昭和二年及昭和三年共に村落に多く、兩年の市街と村落との合算比は件数に於て三〇と七〇、人員數に於ては二四と七六である。但し反動運動、無政府主義運動及思想運動に基く各犯罪は之と反對の比率を示して居る。因に自大正十二年至昭和二年五年間の第一審有罪刑法犯人の犯罪地市街と村落との平均比は六七と三三となつて居る。

起訴人員數昭和二年九三七人、昭和三年四二三人に付廳名別に舉示すれば別表(附第六號)の通りであるが之を控訴院別に摘出すれば左の通りである。

控訴院管内別	昭和二年		昭和三年		計	
	人員數	百分率	人員數	百分率	人員數	百分率
東京控訴院管内	一六九	一八%	一七一	四〇%	三四〇	二五%
大阪控訴院管内	二一八	二三%	六八	一六%	二八六	二一%
名古屋控訴院管内	五九	六%	五七	一三%	一一六	九%
廣島控訴院管内	二四六	二六%	四六	一一%	二九二	二一%
長崎控訴院管内	五三	六%	一二	三%	六五	五%
計	七四〇	四二〇%	一四九八	三一九%	一六七二	五八〇%

思想犯罪の概況



宮城控訴院管内	一六五	一八%	四九	一二%	二二四	一六%
札幌控訴院管内	二七	三%	二〇	五%	四七	三%
計	九三七	一〇〇%	四二三	一〇〇%	一、三六〇	一〇〇%

即ち、兩年の合算數に付いて見ると東京、廣島、大阪、宮城、名古屋、長崎、札幌の順位となつて居る。之を比較對照の參考の爲、自大正十二年至昭和二年五年間第一審有罪刑法犯人の控訴院別合算比を掲上すれば左表の通りである。

控訴院管内別	百分率
東京控訴院管内	三四%
大阪控訴院管内	二四%
名古屋控訴院管内	一〇%
廣島控訴院管内	一〇%
長崎控訴院管内	一〇%
宮城控訴院管内	五%
札幌控訴院管内	七%
計	一〇〇%

以上。

附第一號

昭和二年  
昭和三年

罪名別有罪確定思想犯罪人員表 (右側ハ昭和二年、左側ハ昭和三年)

罪名別	昭和二年	昭和三年
公務執行妨害	一三	二〇
騒擾	九一	一〇三
放火		二三
水利妨害		二
住居侵入	六	二
文書偽造		一
偽證		
労働争議小作争議労働運動農民運動政治運動水平運動反動運動無政府主義運動		
其他		
計	一九四	三五四

思想犯罪の概況



計	縣令	警察犯處罰令	請願令	銃砲火藥類取締法	治安警察法	出版法	新聞紙法	暴力行為等處罰ニ關スル法律	毀棄	業務上横領
三二五 五九〇	五二	一	九	一	四六	一七 八六	一四			
三三六 六五三	一一			五	一一	一一 二一	一六			
一一二 五二	一			三	九五	一六				
一四八 八三	四			二	〇二	三九	一	二		
四〇七	一	四		四	三	二				三
一一三 九	四				一	六				
一一五 三			一			一九				
一一八 三	三				一	六	八			
五二六 二	三	六	三		一	七八	一五	八		
一一二 二		一								
三七九 一三	四	二 六五	五	一 〇	二 九三	六 三七	一一 三一	二 五 九九	一 三〇	三 二

恐喝	強盜	窃盜	業務妨害	名譽毀損	脅迫	暴行	傷害	殺人	瀆職	神祠・墓所・其他禮拜所不敬・說教・葬式妨害
		一	二		九		二九 二四	一	二	
六		二	二		三	一	二二 五二	一		
					一		一九			
六				二	三		一			
							三			
							二	七		
							四	三		
七	三									
二							二			
										二
二 九六	三	一 二	四	二	一 四六	一	六 四〇	二	二	二







罪名別	昭和二年						昭和三年					
	公務執行妨害	騒擾	放火	水利妨害	住居侵入	偽造	公務執行妨害	騒擾	放火	水利妨害	住居侵入	偽造
少年	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1
青年	1	1	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1
成年	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1
壯年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
中年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
高年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
老年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

附第三號

昭和二年  
昭和三年

罪名、年齢別有罪確定思想犯罪人員表 (右側ハ昭和二年、左側ハ昭和三年)

平均	計		老年 五〇以上
	強	弱	
二二 六九	三三 五九〇	一一 二	三 九八
三三 九六	三三 六五三	一一 一	三 一六
二二 九四	一一 五二	一一 一	四 〇七
三三 〇四	一一 四三	一一 一	二 三
二二 八二	四 〇七	一一 一	二 一
二二 六四	一一 三九	一一 一	二 一
二二 六〇	一一 五三	一一 一	二 一
二二 五四	一一 八三	一一 一	二 一
二二 六一	五二 六二	一一 一	二 一
三三 八八	一一 二一	一一 一	二 一
三三 〇二	三七 一九	一一 一	一 五







計	無職業	奴婢、日傭其他	公務、自由業	商業、交通業	鑛業、工業	農業、水産業	職業別
三二五 九〇	一二〇 八	一六七 〇	一一七 五七	一三五	一九三 四三	一七	労働争議 犯罪基礎
三六三 五三	三	三一	一七	五二		三〇 五六	小作争議 犯罪基礎
一一五 二	一一	一一	八三	一四	三	一一	労働運動 犯罪基礎
一四八 三	二	一三	四七	二一		一三 一〇	農民運動 犯罪基礎
四〇七	三一	四	二一	九三	五	一七 二	政治運動 犯罪基礎
一一三 九		五二		四二	一	一 三五	水平運動 犯罪基礎
一一五 三	二	一七	二二		四		反動運動 犯罪基礎
一一八 三	四二	一一	二七	一	三		無政府主義 犯罪基礎
五二六 二	一七五	九一	一六二	四一	五二	一 五一	思想運動 犯罪基礎
一一二 一	二一	三二		二一	五一	六	其他
三七 一九 一三	五四 九四	四八 五八	五四 〇六	三二 一九	三一 三四	三 七 二	計

附第四號

昭和二年  
昭和三年

職業別有罪確定思想犯罪人員表  
(右側ハ昭和二年  
左側ハ昭和三年)

Table with multiple columns and rows, mostly blank or faintly visible text. The table structure is not clearly discernible due to low contrast and blurriness.



昭和二年  
昭和三年

季節別有罪確定思想犯罪事件數及人員表  
(右側ハ昭和二年  
左側ハ昭和三年)

附第五號

計	冬 (自十二月 至二月)	秋 (自九月 至十一月)	夏 (自八月 至六月)	春 (自五月 至三月)	季節別	
					件數	人員
二六六	三三三	二七二	七二一	八九	二	勞働争議小作争議
三三〇	三三三	八七	一九九	九二	二	犯
二九八	五三	四三	一〇四	一〇八	二	犯
三六三	一九五	四五	二七九	二六四	二	犯
二二八	二	一	五二	六四	二	犯
二五三	八	一	六九	八五	二	犯
二四三	三九	二四	五五	四五	二	犯
一八三	四二	三七	五六	六九	二	犯
一九六	七二	七二	一一	四一	二	犯
四〇七	二二	九二	一一	五一	二	犯
五六	一二	二	二一	二三	二	犯
二二九	一六	二	六六	六七	二	犯
五四	一	二二	一	一一	二	犯
二五三	一	四二	二	八一	二	犯
九七	二一	二	四三	三一	二	犯
一八三	四三	二	六六	八二	二	犯
三七二	四三	九二	一五三	九三	二	犯
五六三	七五	三二	三二	四三	二	犯
八一	一	五	五三	二三	二	犯
二二	一	五	九三	一三	二	犯
二〇二	三三	七七	五三	五九	二	犯
二七九	六三	二二	二七	九〇	二	犯
二二	一	一	一	一	二	其他
二〇二	三三	七七	五三	五九	二	計
二七九	六三	二二	二七	九〇	二	人員











合 計	釧 路	旭 川	函 館	札 幌	計	青 森
三三二	五五	三二	二	三	一九	
一〇九二	九二	五二	四	九	一三六	
三六〇	二三	一一		一一	九	
三九二	二六	一四		一一	二〇	
一四八	三	三			三三	二
一七三	三	三			四四	二
一五三	一四	二	一	一一	三一	一
二四三	二五	二	一	二二	三一	一
二〇六	一		一		七	
四七七	三		三		二	
五六						
一三二						
八五	二			二	一	
三六三	二			二	七	
一〇七	二	二			一	
一九四	二	二			二	
四二	一一			一一	五五	二一
六二四	一一			一一	九四	三一
一一〇					一	
一一					一	
一九〇九	三二七	三三	四六	三	三八	二八三 五一
四九三七	二二七	三三	六九	七	四一	一六五 六一

秋 田	盛 岡	福 島	仙 臺	計	熊 本	福 岡	佐 賀	計	松 山
一一		八		二	一	一		二五	一
八		二六		五	二	三		二二	一
七			二	四		三	一	九三	四
〇			〇	三		三	三	一七四	六
二		一						三	
三		二						四	
二								六二	二
二								七四	三
三	一	一	二	二		二		一一	
八	一	一	二	二		二		三二	
				三一	二	一一			
				七四	四	三四			
		一							
		七							
			一					一一	
			二					三三	
三二	一一			二	一	二		七二	三
五二	一一			三	一	三		八五	四
	一							二五	一
	一							四五	一
一四六	三三	二〇	四一	七八	二二	五五	一	三四七	五五
二二四	三二	三六	二二	二五	四三	八七	三	四六六	六九



労働争議に基く犯罪







同	同五十	同	同四十	植木職	中島	勇	云
---	-----	---	-----	-----	----	---	---

犯罪事實(公訴)

被告人平盛己三夫は、日本労働組合評議會中國地方評議會の設立者にして、目下同會の書記、被告人勇は、同會木材労働組合の執行委員なる處、昭和二年一月十七日合名會社岡山製材工場代表者津下銀太郎が、其の職工木原安太郎、村上一夫兩名を解雇するや、被告人等は、同月十八日津下銀太郎方に到り其の復職方を交渉したるも拒絶せられたるより、同月十九日再び津下方に到り其の復職方を交渉し、同人の之に應せざるや被告人等は、口々に

此の復職要求に應せざれば職工全部の問題となすべく木材労働組合の爭議とし以て組合員多數の團結力を以て飽迄目的を貫徹せん其の覺悟ありや後悔すな

の趣旨の言語を以て、同人を脅威し、更に被告人中島勇は、同月二十一日午前職工兩人の復職爭議中の費用負擔等八ヶ條の要求を記載せる要求書を津下に交付して、其の要求を爲し、拒絶せらるるや、被告人等は、更に同月二十三日午前十時頃岡山製材工場に到り津下に對し、爭議事務所に来るべき旨求迫し、被告人中島勇は、右津下の左手首を捉へ、被告人平盛己三夫は、傍より爭議事務所

に來れば判る事務所に來いと怒號し、共同して、同人を表街路に引出し労働組合員多數の威力を示し暴行したるものなり。

福 島		第 一 審		第 二 審		上 告 審		職 業	氏 名	犯 時	
罪 名	檢 査 意 見	結 了 日 年 月 日	結 果	檢 査 意 見	結 了 日 年 月 日	結 果	檢 査 意 見	結 了 日 年 月 日	結 果	年 齡	
同 傷 害	同 罰二十	同 三、四、五	同 罰二十							坑 夫 運 搬 夫	三 三
										鈴 木 弘 南 條 謙 吉	三 三

犯罪事實(略式)

被告人等は石城郡内郷村所在磐城炭礦株式會社磐炭會員にして、爾來爭議に従事し居りたる處、昭和二年二月四日午後八時半頃日本鑛夫組合員なる被害者熊谷長右衛門が爭議團本部事務所前を通りたる際、同事務所を覗見したるより、被告人等は同人を右事務所に連行し其不都合を詰責したる上交々同人を毆打し、右胸部頸部に加療十日を要する打撲傷を負はしめたるものなり。



罪名	第一審		第二審		上告審		職業	氏名	犯時 年齢
	意見	結果	意見	結果	意見	結果			
傷害	懲六月	懲四月	懲四月	懲四月	刑相當科	懲三月	坑夫	葛西留五郎	〇
同	同	懲五十	懲四月	懲四月	同	懲三月	同	齊藤岩吉	〇
同	同	懲四十	懲四月	懲四月	同	懲三月	同	作山喜代治	〇
同	同	懲四十	懲四月	懲四月	同	懲三月	同	高梨二男	〇
同	同	懲四十	懲四月	懲四月	同	懲三月	同	長谷忠藏	〇
同	同	懲四十	懲四月	懲四月	同	懲三月	同	坪内又次郎	〇
同	同	懲四十	懲四月	懲四月	同	懲三月	同	田中利勝	〇
同	同	懲四十	懲四月	懲四月	同	懲三月	同	西村三右衛門	〇
同	同	懲四十	懲四月	懲四月	同	懲三月	同	川合勇	〇
同	同	懲四十	懲四月	懲四月	同	懲三月	同	加藤木誠一郎	〇
同	同	懲四十	懲四月	懲四月	同	懲三月	同	關塚倉吉	〇
同	同	懲四十	懲四月	懲四月	同	懲三月	同	佐藤養吉	〇
同	同	懲四十	懲四月	懲四月	同	懲三月	同	廣瀬幸太郎	〇
同	同	懲四十	懲四月	懲四月	同	懲三月	同	菅野明守	〇

窃盗	懲四年	同	同	同	刑相當科	懲三月	同	大和田金三郎	〇
傷害	懲六月	同	同	同	刑相當科	懲三月	同	黒澤市之助	〇
同	同	懲五十	懲四月	懲四月	同	懲三月	同	小原文太郎	〇
同	同	懲五十	懲四月	懲四月	同	懲三月	同	鈴木金吾	〇
同	同	懲四十	懲四月	懲四月	同	懲三月	同	關根喜四郎	〇

犯罪事實(判決)

被告人大和田金三郎は、大正八年十一月十四日第二師團軍法會議に於て、窃盜罪により懲役二年に處せられ、大正十年十一月其の刑の執行を了りたる後、更に大正十二年六月二十七日同軍法會議に於て、窃盜逃亡横領罪等により懲役三年に處せられ大正十五年六月其の執行を了り、

被告人高梨二男は、大正十五年三月十五日松山地方裁判所に於て、傷害脅迫罪により懲役五月に處せられ同年十二月中其の刑の執行を了りたるものなる處、昭和二年一月中福島縣石城郡内郷村磐城炭礦株式會社と所屬坑夫間に於て勞働爭議を惹起し、爾來日本鑛夫組合は同組合員たる右坑夫共に應援し、同盟罷業を圖り、他方會社側にありては罷業阻止に努力し、双方相對峙し運動に従事し居りたる折柄、昭和二年二月九日早曉午前五時過頃同村大字宮字金坂磐炭會事務所(磐炭會は同



會社擁護の團體にして同事務所建物は五十嵐政吉所有にして同人の管理せるもの前に於て、組合側坑夫が磐炭會員より殴打せられたりとの報を耳にするや、同字庄司平吉方に當時設けられたる組合爭議團本部及同字蒲生照綱方に當時設けられたる同爭議團總本部並に其の附近に居りたる組合員及被告人等約百名のものは一同暴力に訴へて之れが報復を爲さん事を圖り、即時同事務所を襲ひ、或者は同事務所の雨戸及硝子等を破壊して、同建物内に侵入し、且つ同所に居合せたる鯉淵宗晴、江本雅彰、關熊三外四名を殴打し、鯉淵宗晴に對しては右拇指打撲右手掌打撲傷を（十日間の治療を要するもの）、江本雅彰に對しては左胸部打撲傷（治療二週間を要するもの）を、關熊三に對しては右前額部挫創（十日間治療を要するもの）を、爾餘の四名に對しては夫々治療五日間以上を要する創傷を負はしめ、暴力を逞ふしたるものにして、被告人等は其の實際現實に手を下し暴行を爲したるの事實を認め難し（但し被告人作山喜代治は硝子戸三枚を被告人黒澤市之助は硝子戸障子を破壊したり）と雖も、相率て右組合員等と共に該場所に到り相倚り、相助けて前記暴行を爲すに至らしめたるものなり。

被告人大和田金三郎は右犯行の外、

(一) 犯意繼續の上、

- イ、大正十五年六月下旬頃石城郡永戸村大字合戸字浮矢遠藤松治が同字牧場に放牧せる同人所有の鹿毛牝馬一頭（代金白五拾圓に相當す）を窃取し、
  - ロ、同年七月中日不詳夜同郡同村大字渡戸字宿頭平山織次郎方の表戸を押開き宅内に忍入り、勝手土間にありたる同人所有の二升炊釜及二升鐵鍋等を窃取し、
  - ハ、同年八月十五日より十六日に至る間に於て同郡磐崎村大字藤原三井炭礦長屋石川寅松方に止宿中、同居者石井岩吉所有の現金二圓五拾錢在中の墓口一個外腹掛一枚外六點（代金拾參圓五十錢）を窃取し、
  - ニ、同年八月十八日より十九日までの間に於て同郡内郷村大字白水字廣畑大友正雄方に被雇中、同人所有のセル單衣一枚外衣類九點其の他（代金四拾圓五拾錢）を窃取し、
- (二) 同年十一月中同郡川部村東海炭礦氏名不詳の飯場頭の下に使役せられ居りし際、同居坑夫菊地二郎より毛糸製ジャケツ一枚木綿ズボン一足毛糸製襟巻一本を借受け着用中之を拐帶逃走し横領したるものなり。

註。右事實は第一審判決に據り掲載したり、本件公訴は騷擾罪として起訴せられたるところ第一

一、二審共傷害罪と認めしが上告審に於て騷擾罪と認めたり。







(十日間の治療を要するもの)を、爾餘の四名に對しては夫々治療五日間を要する創傷を負はしめ、暴力を逞ふしたるものにして、被告人等は其の際現實に手を下し暴行を爲したるものなり。

島 福		第 一 審	第 二 審	上 告 審	職 業	氏 名	年 齡	犯 時
罪 名	意 見							
暴力	懲三月	同	同	同	大工職	山賀 運作	三〇	
同	同二月	同	同	同	同	氏田 庄平	三三	
同	同	同	同	同	同	徳田 嘉太郎	三三	
同	同	同	同	同	同	大谷 一	三五	
同	同	同	同	同	鐵業職	瀧口 國義	三三	
同	同	同	同	同	木羽職	佐藤 熊治	三三	
同	同	同	同	同	大工職	遠藤 菊榮	三〇	
同	同	同	同	同	同	安藤 勝見	三三	
同	同	同	同	同	同	高橋 堅之助	三三	
同	同	同	同	同	同	木場 善吉	三六	

犯 罪 事 實 (判 決)

被告人等は、石城郡内郷村所在磐城炭礦株式會社に雇はれ居りたる處、此の度の勞働爭議に關し電工松崎要之助は日本礦夫組合に屬し會社に反對の行動を取りたるを憤り、昭和二年二月十日午後三時頃被告人一同共謀の上、松崎要之助を威迫する目的を以て、共に同町田坑夫長屋に松崎要之助方に押懸け、同人竝家人に對し大聲にて松崎の野郎でろ、のばして仕舞ふ等と怒鳴り脅迫し、石を屋内に投入し、要之助の子供に打ち當て暴行し、其の他兩戸等をたたき危害を加ふべき態度を爲し脅迫したるものなり。

島 福		第 一 審	第 二 審	上 告 審	職 業	氏 名	年 齡	犯 時
罪 名	意 見							
銃砲火藥類取締施行	罰四十	同	同	同	警務係	今村 米吉	元	
同	同	同	同	同	同	佐藤 棟太郎	四	
同	同	同	同	同	同	下釜 政次郎	三	
銃砲火藥類取締	罰三十	同	同	同	同	宮崎 政雄	三	
同	同	同	同	同	同	原田 高次	三	
同	同	同	同	同	同	八尋 長兵衛	三	







食店に於て、日本礦夫組合員五十嵐政五郎、樋口忠雄の兩人が飲酒放歌し居るを聞き、兩名に對し口論を仕掛けたる上、自己所屬の磐炭本部に到り、只今組合側の者より被告人敏は居合せたる會員と共に一團となり報復のため同飲食店に押懸け、被告人敏は手を以て五十嵐政五郎を毆打し、龍雄は薪を以て同人を毆打せんとし、外次郎は同人の胸部を執り、其の他の被告人等は何れも遣付けて遣付けて仕舞へ等と怒號し、共同して右兩名に對し暴行脅迫を爲したるものなり。

被告人外次郎はヒ首所持の資格なきに不拘、右暴行の際ヒ首一挺を所持し居りたるものなり。

熊 本		第一 熊 本 區 審		第二 熊 本 區 審		上 告 審		職 業		氏 名		犯 時	
同 出 版	同 罰 二十	同 罰 二十	同 罰 二十	同 罰 二十	同 罰 二十	同 罰 二十	同 罰 二十	無 日 雇 稼	永 村 德 次 郎	中 島 龍 夫	三 七	三 七	三 七
同 出 版	同 罰 二十	同 罰 二十	同 罰 二十	同 罰 二十	同 罰 二十	同 罰 二十	同 罰 二十	無 日 雇 稼	永 村 德 次 郎	中 島 龍 夫	三 七	三 七	三 七

犯 罪 事 實 (判 決)

被告人兩名は共謀の上、犯意繼續して

第一、昭和二年三月五日熊本市草葉町四番地なる當時の被告人等の住居に於て、全熊本十三萬市民

に訴ふと題し、熊本市本庄町竹田製油工場の労働争議に關し、資本家の惡辣を難じ、労働者の團結權を主張し、既成政黨の無爲に論及したる左記第一文書。

第二、同月六日同所に於て、全市民諸君に訴へますと題し、全市民の同情後援を求めたる左記第二文書。

第三、同月七日同所に於て、右竹田工場争議に關し、全市民諸君に訴ふと題し竹田工場が同月一日從業者二十四名を解雇したる態度を難じて、同志の憤起を促し、新に制定せられたる健康保險法の本質を云爲したる左記第三文書。

第四、同月九日同所に於て、前記工場争議に關し、再び全市民に訴ふと題し、三月一日突發したる右工場労働争議の經過を述べ、官憲の壓迫を難じたる左記第四文書。  
を各騰寫版刷にて出版するに當り、所定の届出を爲さざりしものなり。

記

第一

全熊本拾參萬市民諸君に訴ふ

労働者諸君市民諸君



一日の生活料のために苛酷な租税のために我等は終日終夜殘虐なる資本家の酷使のもとに粉骨碎身の労働を強制されてゐる而も重い負擔はなくなる事があるか資本階級は贅澤三昧に耽つてゐるのに

諸君 我等は今生命を奪はれんとしてゐるのだ 三十間も彼竹田佐平の酷使の下に働いた兄弟も一緒に

見よ如何に彼竹田佐平の惡辣なる吸血振りを又暴利を 日頃強制的に多量の石炭の燃滓を肥料に入れしめ我等の拒絶を不當に責め農民諸君其他一般需要者諸君を暴利貪らん(以下不詳) 彼等資本家階級は日頃自己の利益にのみ汲々してゐるのだ 而も亦見よ 政府が労働者を欺瞞して資本家に暴利を貪らしめんとした保険法を眼前の利益のために拒絶したのだ保険金を出すことの辛さに我等を一枚のはり出し紙で豫告もなく馘首したのだ我々の温なしい哀願をもきき入れずに復職を拒絶し我等の代表者に向つて「無學者は交渉の相手にならぬ氣の利いたものを連れて來い」とは何たる暴言だ終生の酷使に我々は勉強する餘裕があるか而も我等の被馘首者同盟を解散せしめんとするのだ我等の團結權を認めないのだ 諸君 彼竹田の如き資本家支配階級は常に我等を脅かしてゐるのだ

見よ我等が同盟を作つて生命を賭して戦つてゐるのに「既成政黨の仰々しい代表者は何を教へ何を與へたか悲慘なる下層市民のために何をはかるか」 諸君よ 不斷に如何なる政黨が我々の利益を眞に代表するかを見よ 不斷に備えよ

竹田油屋爭議團本部

労働農民黨熊本支部

## 第二

全市民諸君へ訴へます!!

私達は本庄町竹田製油工場の従業員です、此のたびの工場主の無法な馘首に對抗して戦つて居りますがこの勝負は市民諸君の應援の有無に依つて決定されるのですどうぞ行商隊を應援して下さい!!

竹田製油工場爭議團行商隊

## 第三

竹田工場爭議に關し全市民諸君に訴ふ

昭和二年



見よ!!

一八

三 斧鉞に依りて民衆の生存を断たんとする財閥の暴虐を!!

市内本庄町に在る製油工場竹田は没落せんとする自己を食ひ止めんとして三菱財閥との合同を企て露骨にも非道極まる従業員への馘首を以て我被壓迫民衆への挑戦をしたのである去る三月一日彼竹田は過般政府が制定せる健康保険法に依る自己の掛金あるを損失するものとして貳拾四名を解雇した然も従業員代表の再三の交渉にも不拘頑としてはねつけた惨忍無道なる彼竹田はこれにもまして傲語する「一厘の解雇手當も出すことはならぬ、お前達には交渉するの資格はない」と彼が如何に民衆の人格を無視せるか

健康保険法の本質は何か、彼等は何故にこの法律を制定したか、彼等が没落の不安に依る民衆欺瞞の一方法であるこの法制の根拠を見破れ、それは労働者の闘争意識を痲痺せしめんとする懐柔策であり陰謀法である

全日本の労働者は何をしたか!! 現下頻々として勃發する健保爭議の保険金資本家全額負擔の要求を見よ!!

労働者は否全被壓迫民衆は斯くて生存の權利さへも剝奪されつつある この不當なる資本家の暴

舉を公然と容認するものは誰か、決然として同志は!!

屈從に堪へざりし民衆の憤滿は爆發した!! 彼竹田への反抗!!

全資本への抗争!! 遂に戦の火蓋は切られたのである、而も惡虐なる三菱の使喚する彼竹田の行爲は町民の憤激を捲き起した

これ單に竹田工場従業員の問題としてのみ終正せんか、それは全被壓民衆の敗北の一步である、それは必然諸君の頭上にふり向けられるべき毒刃である!!

專制的反動の魔手は今や諸君全體の上にその決定的彈壓を準備しつつある労働者への死の宣告は諸君の共同的戦線を我等としくことに依つて撃破し得るものである!!

竹田工場爭議團を應援せよ!!

労働農民黨熊本支部

#### 第四

竹田製油工場爭議ニ關シ再び市民諸君ニ訴フ

全熊本の市民諸君

昭和二年

一九



去る三月一日を以つて突發したる本庄町の一角に於ける竹田工場労働者の被誣首事件は其後詳細なる報告を(不明)のピラに成したので(不明)の経過をここに述べんとするものである爾後彼悪虐非道なる竹田佐平は(不明)解決に對しては何等の誠意を示さず度々の争議團の會見申込をすげなく拒絶して解決の曙光をすら見出し能はざる状態である此處に於て必然に争議團の意氣は鬱勃として一意汲血鬼「佐平」を徹底的に葬り去らんことを期し第一回批判演說會を去る三月八日夜本庄町争議團本部に於て開催することとなつた當夜は降りしきる雨の夜を物ともせず熱誠なる市民諸君は定刻前に犇々と會場に押し寄せた辯士七名は交々起つて悪辣なる彼竹田佐平の暴虐をあばき佐平の心膽を寒からむるところが多かつた然るに彼等資本家の番犬たる官憲は三分五分にして中止を連發し遂に場内整理係を検束する不祥事を惹起したのである

この暴壓不法行爲を目撃した全聴衆は一齊に起つて檢束反對々策として委員會を開催すべく正に民衆の意氣は白熱化せんとする形勢を示したのであるこの勢に恐怖せる官憲は遂に解散を宣した斯くて民衆の意思は番犬のために押しつぶされた然し我々の主張は正義の叫びであり生きんがためのである奮然起つて町民は本庄町大會の決議をなし誠首反對を佐平に突きつけることになつたのである今我々は我々の背後に力強い民衆の後援者を得た資本魔「佐平」を屈伏させるのも近々

内である我々は全市民の應援を望むこと切なるものである  
全市民諸君この争議をして勝たしめよ

竹田製油工場争議團本部  
労働農民黨熊本支部

取 鳥		第 二 審		上 告 審		職 業	氏 名	犯 時 年 齡
罪 名	米 子 區 審	意 檢 事 見 結 年 月 日 了 結 果	意 檢 事 見 結 年 月 日 了 結 果	意 檢 事 見 結 年 月 日 了 結 果	意 檢 事 見 結 年 月 日 了 結 果			
出 版	同	罰 十 圓	同	同	同	職 工	荒 木 從 繩	三 三
同	同	同	同	同	同	仲 仕	平 山 喜 三	三 三

犯 罪 事 實 (略 式)

被告人等は共謀の上、昭和二年三月十六日内務省に所定の届出を爲さずして、米子町に於て謄寫版を用ひ「資本家學生ヲストライキ破リニ動員、資本主義ノ末路ヲ物語ルモノカ」と題する左記第一文書及「全米子工場労働者諸君ニ訴フ」と題する左記第二文書を印刷し、濱田久一をして米子町内に於て頒布せしめたるものなり。



## 備考

被告人荒木從繩は日本労働組合神戸地方評議員會會員兼書記、平山喜三は同會員なるが、米子製鋼所職工の同盟罷業爭議起るや、其の職工側應援の爲め米子町に來り、種々劃策中本犯行ありたるものなり。

## 記

## 第一

資本家、學生をストライキ破りに動員

資本主義の末路を物語るものか？

資本主義の末路はあわれにも又あわただしき限りである。

國家資本主義トラストへまで轉化結成し始めんとして居る吾資本主義は遂に反動團體の總動員へまで進みつつ此の一大組織隊を以て無産階級に對抗し抗争しつつ又金融寡頭政治まで展化せしめんとするであら。見よ!! 米子製鋼所の此の度のストライキに當つて縣立米子工業學校當局は學生軍を動員して罷業破りを敢行せしめ、爭議開始の第二日目既に數十の學生を米子製鋼所に送つた。而も罷業破りとして

學校當局の御手柄な事よ!

さぞかし文相岡田氏の喜ばれる事だろう!

又社長坂口吸血漢の御氣に召した事よ!

反動教育に浮身をやつす『工業學校當局の反動教育は芽出度馬脚を露出申候』だ

かかる學校に子弟を通して居る山陰一帯の無産階級は一齊に起つて此の責任を學校當局に問はねばならぬ。又かかる反動教育を受けつつある生徒は齊しく起つて當局の責任を問はねばならぬ。

學生諸君學生の自由を曲げんとするブルジョアの代辯的御用聞き學校當局の責任を問へ!! 而して反動教育を一掃せよ!!

罷業破りの汚名を甘受した學生諸君の奮起は又學生當局の反省を促す以所である。直ちに立て!! 起てば即ち責任を問へ!! 而して學校當局の御用振りを一掃し勉學の神聖を確保せよ!! 先ず學生大會を開け 而して其の決議を以て責任を問へ生徒諸君の將來ある意氣を示し力を發揮せよ!!

一九二七年三月十五日

學校の處置反對有志

## 第二

全米子工場労働者諸君に訴ふ

昭和二年



全米子工場労働者諸君「工場労働者」と言ふ者は何と悲惨な者で有らう。諸君も同じ工場労働者で有らう。諸君も同じ工場労働者である以上其の生活の悲惨にして不安は吾々と一様に持つて居れるで有らう。だが諸君吾々は今争議をやつて居ます。之の悲惨な生活からのがれようとして起して居ます。而も此の争議は資本家の挑戦に依つて止むなく起されるに致つたのです。吾々は諸君の正義に訴へ此の争議に於て吾々と資本家と何れが正しいかを訴へんとするものであります。昨年八月以來吾が米子製鋼所は労働者の事等は一寸も考へずに續々と首切を行ひ多數の吾々の仲間をより悲惨なる失業者として街路に投り出しつたのだ。毎日工場で働いて居ても失業の不安は時々刻々に吾々労働者にせまるのみで有る。吾々もより／＼此の對策を協議して居た矢先去る三月八日又もや十一名に對して首切を宣告したのである。而も解雇手當はくれない最早吾々もだまつて居る譯にも行かない此の資本家の横暴に對して吾々は應戰して居るので有ります。そして今争議に入つて居るので首を切られた人の中には勤続年數の十年十五年と言ふ人も多數あります。之の永い間會社のために一意専心に働いて來た人に一厘の解雇手當も出さないのであります。なんと労働者と言ふ者は何時迄で血も涙もない資本家にしひたげられなければならないので有らう。吾々は「コユニ」鐵の如きかたき團結を以て矢の飛ぶ如き勢をもつてストライキを決

行したのである今會社に要求したのは次のような事である(要求書)  
 先づ退職手當の制定解雇手當の制定である。吾々の陣營は最早完全にここのつた。吾々は勝つまで死すまで戦ふのだ、全米子工場労働者諸君よ。吾々が勝つ事は全米子の労働者の勝利だ、負ければ亦全米子工場労働者の負だ。全米子労働者は争議團の後援と支持とを得んとして此所に全米子労働者諸君に訴ふ。

一九二七年三月

米子製鋼所争議團

米子製鋼所總罷業

罷業破りは行くな

罷業團の勝——全労働者の勝

罷業團の負は米子労働者の負けだ

米子労働者の勝は米子市民の勝だ

罷業團はあくまで戦ふ!!

米子市民は舉げて支援せよ!!











右製作所事務所前製罐工場内に争議團事務所を置き、右製作所に對し誠首職工復職等に就き交渉中、同年四月七日午前七時三十分頃被告坂東及石橋は右製作所主人岡部三之助が大崎停車場に赴く途中を擁し、復職其他の件に就き解決を求めたる所、同人は争議に關する一切の交渉は總同盟主事松岡駒吉に一任せりとして直接の交渉を拒絶したるを以て、止むなく右争議團事務所前に於て被告人淺沼外數名と共に交渉の機會を窺ひ居る内、同日午前八時頃偶々松岡駒吉が通り掛りたるを以て之を呼止め、被告坂東は松岡の正面に、被告石橋は其の右に、被告淺沼は其の左に立塞り、松岡に對し同部工場的主人より委任を受けたる事實ありや否やを詰問したるも、松岡は問題外なりとして之に應せざりし爲争論となり、被告淺沼は右手を以て松岡の肩を突き、其のヨロメク瞬間被告坂東は携へたる鯨のステッキを以て松岡の後頭部を毆打し、被告淺沼は携へたる木刀を以て同じく松岡の頭部を毆打したるため、松岡は約五六尺後退し山根飲食店角に於て被告淺沼のために打倒されたる際、被告石橋、坂東は再び松岡の頭部其他を亂打し、遂に同人の左前頭部外六ヶ所に挫創右額骨外二ヶ所に皮下挫傷を負はしめたるものなり。

大 阪		第 二 審		上 告 審		職 業		氏 名		犯 時	
罪 名	檢 察 官	結 果	結 果	結 果	結 果	職 業	氏 名	年 齡	時 間	地 點	時 間
暴力	懲二月	二、五、七	懲二月			職 工	橋 田 菊 吉	三			元
同	同	同	同			同	角 園 重 造	三			三
同	同	同	同			同	奥 田 一 猪	三			三
同	同	同	同			同	篠 田 啓 松	三			三

犯 罪 事 實 (公 訴)

被告人等は孰れも大阪市東成區蒲生町五百十四番地富田硝子製造所壘吹職工なる處、同製造所主富田義一は大正十四年七月中賃金一割五分の値下を爲し、更に昭和二年二月中より五合酒壘吹賃一本に付金一厘の値下を斷行したるより、一人當一日收入約四十錢減少したる爲、被告人等の勞働組合の應援を得て賃銀値上要求を爲さむことを企て、同年二月末日本勞働組合評議會大阪金屬勞働者組合に加入し、同組合應援の下に同年三月十六日前記工場主に對し、請負賃銀六割及常備者賃銀三割値上其他解雇及退職手當制定、待遇改善、健康保險掛金全部工場主負擔等七項目を嘆願の形式に於て要求したるも、翌十七日之が拒絶の通告を受けたるを以て、即時前記要求事項の外更に勞働



時間短縮争議中の賃銀及費用全部支給並犠牲者を出さざること等の要求事項を加へたる要求書を提出し、之が承認を要求したるも之亦峻拒せらるるところとなりたるより、同日午后一時頃より全職工約七十名工場を引揚げて罷業し、前記労働組合江支部を争議團本部と爲し、其の後時々争議團職工數十名工場事務所に殺到し、工場主に要求事項の承認を求め、争議を繼續し來りたるも、工場主は事毎に要求を拒絶し、且臨時雇職工を雇入れて營業を繼續し、何時解決すべきや斗り難く、此の儘にて推移せば結局惨敗の己むなき状態に立至るべきにより、前記労働組合の幹部高田宏三、田中寅之助等主唱の下に前記被告四名謀議し、同年四月九日夜罷業職工及應援團員多數にて示威運動を爲し、工場主の父富田芳五郎の住居せる大阪市東成區鳴野町七百十五番地北村源平方、同工場支配人島田關藏方及工場側争議顧問藤田重信方を襲ひて脅迫し、表戸を叩き、硝子戸を破壊するに於ては、同人及工場主等も恐怖の餘り要求を承認するに至るべしと爲し、同夜八時頃罷業職工十五六名應援團員二十五六名合計四十餘名を城東練兵場に集合せしめ、前記被告四名及田中寅之助は之等を指揮し、多衆にて前記北村源平方に殺到し、「早く解決セヨ」「親爺ニ會ハセヨ」等と叫び、且被告人四名共同して同人方表入口の硝子入格子戸を手にして打叩き、依て同硝子戸の硝子を破壊し、次で被告人は多衆と共に同町七百九番地島田關藏方を襲ひ前同様の言辭を叫び、且共同して同人方硝

子入格子戸を手にして打叩き、依て同硝子戸の硝子數枚を破壊し、更に同町六百四十二番地藤田重信方に殺到し、前同様の言辭を絶叫し、表硝子戸を打叩き、以て多衆の威力を示して、同人等を脅迫したるものなり。

福 島		第 一 審	第 二 審	上 告 審	職 業	氏 名	犯 時 年 齡
罪 名	意 見						
傷 害	懲 三 月	二、五、七	罰 六 十		採 炭 夫	大 森 亘	三
同	同	同	同		同	笠 間 富 治	三
同	同 二 月	同	同 五 十		同	入 部 義 弘	三
同	同	同	同		無	橋 高 大 治	三
同	同	同	同		同	木 田 達 四 郎	三
同	同 四 月	同	同 八 十		炭 礦 夫	大 森 八 之 助	三
同	同	同	同 五 十		同	角 端 柳 太 郎	三

犯 罪 事 實 (判 決)

福島縣石城郡湯本町大字湯本所在入山採炭株式會社に屬する入山炭礦に於ては、第五坑煽風機の



シャフト破損したる爲め修繕中、日本鑛夫組合員たる労働者は危険の爲め入坑すること能はざることを主張し、全坑夫の入坑を阻止する動運を爲し、會社に於ては之に對抗して危険ならざる部分の入坑を督勵し爭議中の處、昭和二年四月十二日午後八時頃坑夫組合員四五十名位五坑坑口に於て入坑阻止の宣傳中、會社側の警戒係員中島吾郎、橋口久平は宣傳を阻止したる處、鑛夫組合員は右兩名に暴行を加へ其の際鑛夫組合員なる被告人亘、大治、達四郎は共同して中島吾郎を八之助、富治は共同して橋口久平を各毆打し、吾郎に第一掌指關節脱臼、久平に顔面の打撲傷其の他各治療二週間を要する創傷を負はしめ、翌十三日午前十一時頃鑛夫組合員四五十名湯本町大字湯本日渡三十五號坑夫長屋に於て入坑阻止の宣傳札を配布せむとしたるに會社側警戒係員菅野代重、瀨谷駒吉等に於て其の配布を阻止したる處、組合員等多數同人等に暴行を加へ其の際被告人八之助、亘、富治、樹太郎、義弘は共同して瀨谷駒吉を八之助は菅野代重を毆打し、駒吉に左右顳額部打撲傷裂傷治療十日間、代重に左側顳額部打撲裂傷其の他治療三週間を要する創傷を負はしめたるものなり。

註。檢事は暴力行爲等處罰に關する法律違反と認めたり。

千葉		第一		第二		上		職業		氏名		犯時	
罪名	檢事見事	年月日了	結果	檢事見事	年月日了	結果	檢事見事	年月日了	結果	職業	氏名	年齢	犯時
業務妨害	罰二十圓	三、五、三	(略)							職工	山田和造	三	
毀棄	罰五十圓	同	同							同	平野藤一	三	
同	罰二十圓	同	同							同	牧野市太郎	三	
同	同	同	同							同	金見廣誠	三	
同	同	同	同							同	飯塚精一	三	

犯罪事實(略式)

山田和造、平野藤一、飯塚精一、牧野市太郎、金見廣誠は何れも關東釀造労働組合員として千葉縣君津郡青堀町大堀醬油釀造業鳥海合名會社に職工として被雇中、昭和二年三月二十六日頃他の右労働組合員なる同會社の職工と共に同會社に對し解雇職工を復職を要求し、之を拒絶せらるるや、更に職工待遇改善の要求を爲し、茲に労働爭議を生じ其の解決を見るに至らざりし處より、昭和二年四月十日頃より怠業を開始繼續し居りしが、其の要求を容れられざるを憤慨し、同月二十二日午前十一時頃より同日正午頃迄の間に



第一、山田は同會社荷詰場に於て、店員平野音治、石崎時雄が商品として得意先に送荷すべき九升樽十五本に醬油を詰め居るを知り、同人等に對し「他の者は殴れと云ふが殴らぬから醬油の荷詰に使用する長柄杓漏斗を寄越せ」と告げ、尙平野、石崎等が其の貸與方を求むるや「命を粗末にするな」と威迫し、威力を用ひて之を取返し、其の醬油の詰入を妨げ同會社の業務を妨害し、

第二、平野藤一は右荷詰場に於て、長柄杓を以て同所の火入桶に貯藏せる醬油二十二石五斗を攪拌し、更に火入を爲すに非ざれば商品と爲す能はざる程度に其の品質を劣悪ならしめ、以て金百拾七圓の損害を加へ、

第三、飯塚、牧野、金見は右荷詰場に於て醬油九升を詰入れたる積樽の内、飯塚は一樽(價格五圓)、牧野は二樽(價格拾圓)を夫々突落し、金見は一樽(價格五圓)を投棄し、各自之を損壞したるものなり。

島 福		第 一 審		第 二 審		上 告 審		職 業		氏 名		犯 時	
傷 害	罪 名	意 見	結 了	意 見	結 了	意 見	結 了	新 聞 販 賣 業	職 業	氏 名	年 齡	犯 時	
懲二月		三、五、三	罰五十					田邊喜三平			三	元	

犯 罪 事 實 (判 決)

被告人は、日本礦夫組合入山支部執行委員長として石城郡湯本町入山炭礦従業員に罷業煽動中、昭和二年四月二十四日午前十一時過頃同炭礦警戒係に於て之を阻止したる處、棍棒を振廻し警戒係市川朔助の左腕を殴打し、左肘關節部に治療三週間を要する打撲傷を負はしめたるものなり。

島 福		第 一 審		第 二 審		上 告 審		職 業		氏 名		犯 時	
暴 力	罪 名	意 見	結 了	意 見	結 了	意 見	結 了	坑 夫	職 業	氏 名	年 齡	犯 時	
懲二月		三、五、三	罰四十					加藤菊三			三	元	
同		同	同	同	同	同	同	柳沼忠一			三	元	
同		同	同	同	同	同	同	瀨谷駒吉			三	元	
同		同	同	同	同	同	同	大野長次郎			三	元	

犯 罪 事 實 (公 訴)

被告人共は當管内石城郡湯本町所在入山探炭株式會社の坑夫なる處、同炭礦内に於ける労働爭議に關し會社側を援護する目的の下に設立せる立國自治會の會員として警戒に従事中、昭和二年四月



二十八日午後四時頃日本坑夫組合に屬する坑夫千葉胤夫、柏木三四郎、猪狩徳雄、佐伯光榮の四名が石城郡湯本町大字湯本字青葉下に於て、坑夫共に對し同盟罷業を宣傳せんとするを目撃し、被告共は之を阻止せんと欲し、他の立國自治會員等と共同して前記四名に對し暴行を加へたるものなり。

島 福		第 一 審		第 二 審		上 告 審		職 業		氏 名		犯 時	
公務執 行妨害	罪 名	檢 見	事 結	年 月 日	結 果	檢 見	事 結	年 月 日	結 果	職 業	氏 名	年 齡	犯 時
同	懲三月 三年猶豫	意	見	年	結	意	見	年	結	同	炭 夫	田 邊 末 松	三 五
同	懲三月 三年猶豫	意	見	年	結	意	見	年	結	同	炭 夫	中 村 竹 次 郎	三 七

犯 罪 事 實 (判 決)

被告人等は昭和二年四月二十九日夜石城郡湯本町字石畑酒寄完三方に於ける日本礦夫組合の入山炭礦勞働爭議に關する演說會に參集し居りたる處、臨監の警察官より辯士の演說を中止せらるるや、喧騒に解散せられたる後、再び附近の道路に於て暴言を吐きたる爲め、群衆喧騒せんとしたるより、當時取締の任に當れる佐藤、柴崎兩巡査は群衆に解散を命じ、被告人等を檢束せんとしたるより、被告人等は右柴崎巡査に暴行を加へたるものなり。

島 福		第 一 審		第 二 審		上 告 審		職 業		氏 名		犯 時	
公務執 行妨害	罪 名	檢 見	事 結	年 月 日	結 果	檢 見	事 結	年 月 日	結 果	職 業	氏 名	年 齡	犯 時
同	懲四月 二年猶豫	意	見	年	結	意	見	年	結	工 修 織 職	小 笠 原 政 治	一 九	一 九

犯 罪 事 實 (判 決)

被告人は昭和二年四月二十九日夜石城郡湯本町字石畑酒寄完三方に開催せられたる入山炭礦勞働爭議に關する日本坑夫組合側の演說會に赴き居りたる處、臨監の警察官に於て辯士の演說を中止するや、被告人は憤怒し、卓を差上げ、臨監の警部補松本之子に投付けんとしたるものなり。

島 福		第 一 審		第 二 審		上 告 審		職 業		氏 名		犯 時	
公務執 行妨害	罪 名	檢 見	事 結	年 月 日	結 果	檢 見	事 結	年 月 日	結 果	職 業	氏 名	年 齡	犯 時
同	懲四月 三年猶豫	意	見	年	結	意	見	年	結	炭 夫	荒 川 五 郎	三 三	三 三

犯 罪 事 實

被告人は磐城炭礦株式會社綴坑の坑夫にして、日本坑夫組合員なる處、昭和二年四月二十九日石



城郡湯本町入山炭礦労働争議に付日本坑夫組合員側を應援の爲め、湯本町に赴き同日午後一時半頃組合員約五百名と共に來場の東京自由法曹團辯護士を出迎んとて、停車場に行き其の歸途、御幸町道路に於て巡查佐藤勝彌は交通整理中約五六十名の組合員に取圍まれ暴行を受けんとしたるより、巡查根本博美は之を制止せんとし、其の場に至りたるに群衆中にありたる被告人は同巡查の後方より右大腿部を蹴り、暴行を加へたるものなり。

福 島		第 一 審		第 二 審		上 告 審		職 業 氏 名		犯 時 年 齡	
公 務 執 行 妨 害	懲 二 月 三 年 猶 豫	意 見 結 了 年 月 日	結 果	意 見 結 了 年 月 日	結 果	意 見 結 了 年 月 日	結 果	炭 夫 礦 齊 藤 林 十 三			

犯 罪 事 實 (判 決)

被告人は昭和二年四月二十九日夜石城郡湯本町大字湯本字石畑酒寄完三方に開催せられたる入山炭礦争議に關する日本坑夫組合側の批判演說會に聴衆として赴き居りたる處、臨監の警察官に於て辯士に演說の中止を命じたる處、一千名の聴衆は喧騒したるより、警察官は鎮靜に努め居る際、警察官に投石して公務の執行を妨害したるものなり。

福 島		第 一 審		第 二 審		上 告 審		職 業 氏 名		犯 時 年 齡	
傷 害	懲 三 月 二 五 三 日 罰 六 十 圓	意 見 結 了 年 月 日	結 果	意 見 結 了 年 月 日	結 果	意 見 結 了 年 月 日	結 果	硝 子 工 小 牧 秀 則 三			

犯 罪 事 實 (判 決)

被告人は東京市居住の硝子職工にして、石城郡湯本町大字湯本に於ける入山炭礦労働争議に付、日本坑夫組合側に應援する爲め、前記湯本町に滞在中同組合員室井太一の行動を以て同志に叛くものなりとし之を憎み、昭和二年五月八日午後一時頃同争議團四坑班高橋袈裟七方に於て、室井の左頬を拳にて毆打し、左足を靴にて蹴り、治療三週間を要する打撲傷を負はしめたるものなり。

神 戸		第 一 審		第 二 審		上 告 審		職 業 氏 名		犯 時 年 齡	
暴 力	罰 三 十 圓 三 八 六 日 無 罪	意 見 結 了 年 月 日	結 果	意 見 結 了 年 月 日	結 果	意 見 結 了 年 月 日	結 果	無 佐 々 木 守 三			

犯 罪 事 實 (判 決)











被告人等(榮六、清吉、三郎を除く)は入山炭礦坑夫に被雇、昭和二年四月上旬頃同炭礦に勃發したる勞働爭議に付、日本礦夫組合員として爭議團に屬し居りたるものなる處、

第一、(一)被告人松之助、力、實は昭和二年五月十五日午後八時三十分頃約百名の爭議團員が喊聲を揚げ、石城郡湯本町大字湯本字臺ノ山入山炭礦病院前に殺到し、反對側警戒員及巡查等に對し携帶せる棍棒を振廻し、或は投石して暴行し騷擾したる際、之に加はりて附和隨行し、

(二)右被告人及被告人政之助、佐吉、箴、長左衛門、吉美は同日午後十時頃右臺ノ山第十九號坑夫長屋被告人政之助方に二十餘名の坑夫組合員と共に集合し居りたる折柄、屋外より白來れりと叫ぶ者あるや、其の聲に應じて戶外に飛出し、右長屋下の鐵線垣を修繕に赴きたる反對側警戒員佐々木清、太田七郎、馬目子之松、阿部平助、遠藤政之助、鈴木友吉、鷺尾卯吉、小菅半一郎等に對し、携帶せる棍棒等を振廻し、又は投石し、治療一週間乃至二週間を要する創傷を負はしめ、(三)被告人吉美は同日午後七時三十分頃右臺ノ山第十九號長屋稻葉常作方軒下に於て、約二十名の坑夫組合員と共に勞働歌高唱中、之を制止したる反對側警戒員鐵藏の左子指に咬付き、以て被告人を取押へんとしたる柴田忠三郎の左子指に咬付き、右兩名に對し治療約一週間を要する咬傷を負はしめ、

第二、(一)被告人榮六は入山炭礦坑夫にして、昭和二年四月上旬頃同炭礦に勃發したる勞働爭議に付、

日本礦夫組合員として爭議團に屬し、被告人清吉、三郎は磐城炭礦坑夫にして、同年五月十五日右爭議應援のため石城郡湯本町大字湯本字裏町爭議團本部に到り、右被告人榮六と共に同所に居合せたる際、同夜八時三十分過頃前記騷擾の現場より引揚げたる爭議團員等を逮捕のため同本部に赴きたる警察官に對し、逮捕を免かれんがため、被告人榮六は巡查根本正夫に對し手を振廻して抵抗し、被告人清吉は巡查橋本信意に對し兩手を振廻して抵抗し、被告人三郎は巡查永倉三郎の胸を押へ腕、肩等を毆打し暴行を加へたり。

(二)被告人田村は昭和二年四月上旬頃石城郡湯本町所在入山炭礦に勃發したる勞働爭議に付、日本坑夫組合入山支部長として爭議團員を卒ひ、専ら罷業宣傳示威運動等に従事し居りたるものなる處、同年五月十五日午後八時三十分頃爭議團員數十名が、同町大字湯本字臺ノ山入山炭礦病院前に押し寄せ、同所を警戒し居りたる反對側の自治會員及巡查等を棍棒にて毆打し、或は投石して、右同町大字湯本字裏町の爭議團本部に引揚げたるを以て、即時警部補岡部泰見、同近藤千歌が多數の巡查を卒ひて之が逮捕のため同本部に赴きたる際、之に反抗し被告人は同警部補に對し「やつつけろ」と叫びて脅迫し、以て公務執行を妨害したるものなり。







被告人福永豊功外數名は何れも徳島撫養塩田労働組合高島支部労働争議團員なる處、昭和二年四月六日頃徳島撫養塩田労働組合高島支部より同地塩業者に對し、賃銀の値上を要求したるも、同月十二日其の要求を却けらるるや、其の翌日より怠業を企てたる爲、同月二十七日同支部組合員は全部解雇せられ爾來組合員は團結して塩業者に對抗し争議繼續中、同年五月二十二日香川縣より塩田労働者山西節三郎外八名が塩業者側の募集に應じ、板野郡鳴門村高島に入込みたるを知り、斯くては労働組合側が不利の立場に陥り屈服の止むなきに至らんことを慮り、之を退去せしめんと欲し、同日午後八時頃被告人福永豊功外數名は香川縣より來りたる山西節三郎等の宿泊せる板野郡鳴門村高島字中島大石某方納屋に到り、折柄同所に押寄せ來りたる高島支部員十數名を背景として前記山西節三郎等に對し執拗に退去方を迫りたるも、同人等が即答を躊躇する模様あるを見て、被告人福永豊功及外數名等は今三百名位の女小供が頼みに來る筈なるが、若し君等が此の地に止まり労働に従事することとなれば生活に窮し居る組合員の女小供等が君等に對し、如何なる危害を加ふるやも知れざるを以て豫め注意し置く旨を交々申付け、以て脅迫したり。

廣島		第 二 審		上 告 審		職 業	氏 名	犯 時 年 齡
罪 名	第 一 審	第 二 審	上 告 審	職 業	氏 名			
傷 害	懲 六 年	三、二、二	懲 四 年			鐵 工 職	日 野 彌 平	三 六
同	同 一 年	同	同 八 月			者 述 業	山 口 勝 清	三 三
同	同 十 月	同	同			同	深 田 武 雄	三 三
同	同 六 月	同	同 六 月			鍛 冶 職	沖 浦 靜 夫	三 三
同	同 一 年	同	同 十 月			出 版 業	小 松 龜 千 代	三 三

犯 罪 事 實 (判 決)

廣島縣沼隈郡鞆町鞆鉆町合名會社は男女職工を使用し鉄釘類を製造し來りたるものなる處、財界不況にて注文者寡く漸次生産過剩と爲りし爲、昭和二年五月二日其の賃金の値下を發表したるに、職工なる被告人沖浦靜夫外十八名は右値下に反對して、同月八日より同盟罷業を爲し、一方右職工等の組織せる勤勞會より岡山中國労働組合自由聯合會に應援を求めたる結果、同會より糸島孝太郎その他、大阪より被告人日野彌平、福山より被告人山口勝清、同澤田武雄、同小松龜千代等來鞆し、森田郁子所有の鞆町大字鞆字肥後屋町通南側第五號空家を借受け、鞆労働争議團事務所を設置



し、前示職工賃金の復舊を畫策したるも、會社の態度強硬なるのみならず、漸次復業するものもあり、加ふるに鞆町に於ては右賃金値下に關する批判演說會たる會場の貸與者なき爲開催するを得ず、到底目的貫徹の見込なきに立至りたるが、被告人等は之一に鞆警察署が爭議團に壓迫を加ふるが爲なりと思惟し、反感を抱きながら、同年六月六日一應爭議團事務所を閉鎖して、被告人沖浦靜夫以外の被告人其の他の應援者と共に各歸郷すること爲り、同日午後五時頃より同事務所二階に於て、被告人共外應援者罷業者等は別盃の酒宴を催したるが、午後六時頃に至り被告人等は酒氣に乘じ目的不成功の鬱憤を晴す爲、

第一、被告人日野彌平は、事務所二階表窓より庇の瓦屋根に出て軒燈脇に取付けある唐草瓦一枚を剝取り、建造物の一部を損壞し、

第二、次で午後六時三十分過頃、被告人日野彌平、同沖浦靜夫、同山口勝清は意思相通じ共同して、  
 (一) 被告人日野彌平は、右事務所庇の屋根瓦を剝取り、二階表窓より之を其の前方街路に投付け、  
 (二) 被告人山口勝清は、同庇の屋根瓦を剝取り、且室内に立掛けありし家主所有の硝子戸の硝子を破壊し、其の破片及山下秀次所有の煙草の喫殻入竝勤勞會所有の直徑一尺一寸の瀬戸丸火鉢等を右窓より其の前方街路に投付け、

(三) 被告人沖浦靜夫は、勤勞會所有の二升入空藥罐を右窓より投付け、向隣河村長九郎方二階表窓硝子戸の硝子二枚を破壊し、

以て建造物の一部を損壞し、器物を毀棄し、且約三十分間危険にして何人も通行し得ざる程度に該街路を壅塞して往來の妨害を爲し、

第三、右被告人等の暴行に依り附近一般を戦慄せしむるに至りしを以て、午後七時過頃鞆警察署詰の佐々木、谷本兩巡査部長、荒谷播摩巡査其の他の巡査等は、被告人等を建造物損壞等の現行犯人として逮捕に着手したるに、被告人五名は多數を恃みて共同して何れも巡査等が前示職務を執行の爲室内に入り來るや、

- (一) 被告人沖浦靜夫は、逸早く階上より降り來りて佐々木巡査部長に飛菟り、續いて谷本巡査部長に立向ひ、右の拳骨を振上げ、突然額を毆打して打撲傷を加へ、
- (二) 被告人澤田武雄は、被告人沖浦靜夫に次で階上より降り來り、荒谷巡査に立向ひ、更に巡査播摩武一に對し蹴上ぐる等頑強に反抗し、遂に同巡査に取押へらるるや、荒谷巡査が被告人小松龜千代と組付き居るを目撃し、其の附近にありし飯臺を足蹴にして同巡査の右膝關節下部に治療一、二日を要する打撲傷を與へ、



(三) 被告人小松龜千代は、階上巾三尺長さ一間の手摺りある明取り穴より他人所有の茶呑茶碗數個を階下に於て逮捕に従事せる巡査を目蒐けて投付けて、其の中二、三個を破壊し、且他人所有の蒲團を投付け、直に階下に降り來りて荒谷巡査に對し「おどれ復遣つて來るか」と嘯鳴りながら、同巡査を拳骨にて毆付くる等の暴行を加へたる上、佐々木巡査部長を拳骨にて打毆し、其の左下眼窩縁皮下に治療一、二日を要する打撲傷を與へ、

(四) 被告人山口勝清は、階上表窓より既に逮捕せられて河村方前の荷車脇にて被告人小松龜千代を看守せる巡査を目蒐けて蒲團を投付け、

(五) 被告人日野彌平は、階上の前記明取り穴より階下に於て被告人澤田武雄が播摩巡査に取押へられ居るを目撃するや、二階手摺脇の東側壁に立掛けありし糸島孝太郎等が持來り居りたる中國労働組合自由聯合會所有の重量約三百五十匁、長さ約七尺二寸の劍付團旗竿の竿先を下方に向け、同巡査の背部目蒐けて投刺し、左背胸肩胛間部より胸廓を貫通したる上、急性肋膜炎を併發したる治療日數二三ヶ月を要する刺傷を加へ、

以て荒物を毀棄し、且巡査等に傷害を加へて、其の公務執行を妨害し、

第四、被告人小松龜千代は、右現行犯人として逮捕せられ、同日午後九時三十分

頃同署留置場の窓硝子に腕を投付けて硝子一枚を破壊したるものにして、  
 右被告人日野彌平の第一、第二の建造物損壞、被告人日野彌平、同山口勝清、同沖浦靜夫の第二、第三の器物毀棄、被告人小松龜千代の第三、第四の器物毀棄は何れも犯意繼續に係るものなり。

札幌		第一區		第二區		上告		職業		氏名		犯時	
罪名	檢見	年月日	結果	檢見	年月日	結果	年月日	結果				年齢	時間
公務執行妨害	同	懲四月	同	懲四月	同	懲四月	同	懲四月	解人夫	生石善雄	三		
傷害	同	同五月	同	同	同	同	同	仲仕	五十嵐松太郎	六			
公務執行妨害	同	同四月	同	同	同	同	同	同	田澤正二	三			
傷害	同	同三月	同	同	同	同	同	解人夫	青山堅佐久	三			
公務執行妨害	同	同三月	同	同	同	同	同	自由労働者	若林善松	元			
同	同	同	同	同	同	同	同	同	小川兼五郎	三			
同	同	同	同	同	同	同	同	日雇	佐々木惣治	三			

犯罪事實(公訴)

小樽合同労働組合は昭和二年六月十一日以來小樽市解業組合其他海岸事業者との間に爭議を惹



起し、同月十九日より其の従業者全員の同盟罷業を執行したるが、被告人等は之に加擔し罷業繼續中、同月二十三日夜罷業者の一部は、同市石山町俗稱切割山「〇」キャンデー廣告塔の下に無届集會せんとする模様あるより、之が取締の命を受けたる小樽警察署巡查部長大場新悦郎は和田山、江刺家、圓谷、海野、櫻庭の五巡查と共に、同日午後八時五十分頃現場に到りたるに、果して數百名の罷業者集會し居り、警察官の一行を認むるや「ヤツツケテヤレ」と叫び、或は巡查に投石しつつ石山町切割道路に退去したるが、偶々同町淨應寺附近に於て警戒の爲め錦町巡查派出所より其の場に来合せたる廣部、北村、近嵐、滑川、佐藤各巡查の一行と遭遇するや群衆は又復警察官が來たぞ「ヤツケテ仕舞」と云ひながら廣部巡查を棒を以て毆打し、北村巡查を引倒して佩劍、帽子を奪ひ、且つ踏み蹴る等の暴行を爲して、同巡查に傷害を加へ引揚げしが、其の中被告生石善雄、五十嵐松太郎、田澤正二の三名現行犯として錦町派出所へ引致せられしかば、數百名の群衆は之を奪還せんとして同派出所附近へ殺到し、口々に被檢束者を放還せよ、放還せざれば「ヤツツケルゾ」と脅迫し、之を制止せんとする巡查に對して石を投付け、終に同派出所の硝子戸を破壊し、巡查佐藤要藏の右顱頂骨中央部に全治七日、巡查廣部耕治の右頬口角部外一箇所に全治五日、巡查江刺家薫の後頭結節部に全治五日、巡查圓谷義雄の左側肩胛部に手掌大の腫張豐隆したる全治十日を要する傷害を加

へたるが、其の間被告人等は之に加はりて左記犯行を爲したるものなり。

第一、被告人生石善雄は前記の如く淨應寺附近に於て、群衆と共に巡查を「ヤツツケテ仕舞へ」と云ひながら棒を以て、廣部巡查を毆打し、

第二、被告人五十嵐松太郎は前記の如く淨應寺附近に於て、群衆と共に北村巡查を地上に引倒し、

踏み蹴る等の暴行を爲して、同巡查の右耳輪上部外二箇所に全治七日を要する傷害を加へ、

第三、被告人田澤正二は前記淨應寺附近に於て、佐藤巡查が一名の暴行者を檢束したるに檢束する必要なしと叫びながら、被檢束者を引張り、他群衆と共に之を遁走せしめ、

第四、被告人青山堅佐久、若林善松、小川兼五郎、佐々木惣治は前記の如く錦町巡查派出所附近へ群衆と共に殺到し、

一、被告人堅佐久は二回巡查に向け拳大の石を投付け、

一、被告人善松は和田山巡查に投石して右手小指に擦過傷を負はしめ、

一、被告人兼五郎は群衆に向ひ逃げずにヤレ／＼を手を振り、且つ巡查に向け盛に石を投付け、

一、被告人惣治は同派出所裏戸田病院前に於て、圓谷巡查が一名の暴行者を檢束したるに之を奪還せんとて群衆の先頭に立ち、被檢束者を掴み、他の巡查が被告人を排除くやる、滑川巡查















